

有明教育芸術短期大学 専攻科

シラバス

有明教育芸術短期大学 専攻科 シラバス目次

初等教育 コース

区分	形態	担当者	授業科目	単位数	開設学期	必修・選択	頁	
専門科目	教育心理学・教育学に関する科目	演習	石井 特別活動研究	2	前	4科目 8単位 以上選択	1	
		演習	伊庭 教育技術とICT	2	前		2	
		講義	池口 生徒指導論	2	前		3	
		講義	山本 教育の歴史と思想	2	後		4	
		講義	山本 現代教職論	2	後		5	
		講義	山本 学校経営論	2	後		6	
		講義	池口 子どもの発達過程と障害	2	後		7	
		実習	山本 小学校インターンシップ	5	通年	必修	8	
	教科教育に関する科目	演習	長田 国語科教材研究と授業づくり	2	前	6科目 12単位 以上選択	11	
		演習	山本 社会科教材研究と授業づくり	2	前		12	
		演習	角杉 体育科教材研究と授業づくり	2	前		13	
		演習	新庄 外国語教材研究と授業づくり	2	前		14	
		演習	池口 算数科教材研究と授業づくり	2	後		15	
		演習	松田 音楽科教材研究と授業づくり	2	後		16	
		演習	有福 図画工作科教材研究と授業づくり	2	後		17	
		演習	石井 特別の教科道徳教材研究と授業づくり	2	後		18	
	関連科目	芸術に関する科目	演習	伊藤 芸術と表現（ピアノ）	2	前	2科目 4単位 以上選択	28
			演習	松田 芸術と表現（声楽）	2	前		29
演習			坂田 芸術と表現（和楽器）	2	後	30		
演習			伊垣 芸術と表現（アニメーション）	2	後	31		
情報科学に関する科目		講義	伊庭 情報教育と社会	2	前	32		
		演習	Reiji 情報科学実践演習A（動画作成）	2	前	33		
		演習	Reiji 情報科学実践演習B（ゲームプログラミング）	2	後	34		
		演習	佐野 情報科学実践演習C（情報の発信と収集）	2	後	35		
専攻に係る単位以外の科目	論文	専任3名 修了研究	4	通年	必修	36		

33単位

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
特別活動研究	選	石井友行	2	前期	講義 演習
授業概要	「特別活動」に関して小学校学習指導要領に示された内容を理解した上で、講義やインターンシップ、模擬授業実践等を通して指導力の向上を図る。				
到達目標	①「特別活動」のねらいと内容への理解を深める。 ②「特別活動」の特質にあった指導法を身につける。				
評価方法	①「特別活動」のねらいと内容への理解を深める。 ②「特別活動」の特質にあった指導法を身につける。				
教科書等	小学校学習指導要領解説 特別活動編				
内 容					
第1回	・オリエンテーション ・学習指導要領「特別活動」の目標、内容構成			講義	
第2回	・特別活動の意義（討論）			講義 演習	
第3回	・特別活動の3視点と社会における汎用性			講義 演習	
第4回	・特別活動指導の基本（指導原理）			講義 演習	
第5回	・各活動の目標及び内容（学級活動）			講義 演習	
第6回	・各活動の目標及び内容（児童会活動） ・研究実践校の研究内容について			講義 演習	
第7回	・各活動の目標及び内容（クラブ活動） ・研究実践校の検証授業のあり方について			講義 演習	
第8回	・授業の実際 研究実践校の授業見学			授業見学	
第9回	・授業の実際 研究実践校の協議会への参加			演習	
第10回	・学級活動（話し合い活動） ・研究実践校の授業見学から学んだこと			講義 演習	
第11回	・各活動の目標及び内容「学校行事」 ・「特別活動」における評価			講義 演習	
第12回	・検証授業の視点について			講義 演習	
第13回	・授業の実際 研究実践校の授業見学			授業見学	
第14回	・授業の実際 研究実践校の協議会への参加			演習	
第15回	・学修のまとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
教育技術とICT	選	伊庭 崇	2	前期	演習
授業概要	情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法について学び、実践的な指導力を育成することを目的とする。ICTを効果的に活用した学習指導や校務の推進について詳しく学ぶ。また、児童に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法の理解を深める。				
到達目標	①情報通信技術の活用の意義と理論を理解している。 ②情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解している。 ③児童等に情報活用能力(情報モラルを含)を育成するための基礎的な指導法を身に付けている。				
評価方法	文献や資料の講読、演習などの課題を課し、授業への取組や授業内の課題、提出物等で評価する。				
教科書等	必要に応じて、担当教員より提示する。				
内 容					
第1回	授業ガイダンス 情報通信技術の活用の意義と在り方				
第2回	情報活用能力を育成するための指導法				
第3回	各教科等横断的に育成する情報活用能力 理論				
第4回	各教科等横断的に育成する情報活用能力 授業考案				
第5回	各教科等横断的に育成する情報活用能力 グループ発表				
第6回	ICTを効果的に活用した授業 指導事例, 授業考案				
第7回	ICTを効果的に活用した授業 発表, 指導案作成				
第8回	表現能力を高めるためのICT活用				
第9回	ICTを活用した校務の推進 理論				
第10回	ICTを活用した校務の推進 課題作成1 文書作成や表計算, プレゼン等				
第11回	ICTを活用した校務の推進 課題作成2 配信やアンケート機能の扱い				
第12回	オンライン教育の意義と使用法 【オンライン授業】				
第13回	情報モラル・情報セキュリティ 【オンライン授業】				
第14回	情報モラル 事例課題解決考案				
第15回	まとめと授業の総括(含 確認テスト)				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
生徒指導論	選	池口洋一郎	2	前期	講義
授業概要	文部科学省『生徒指導提要』（最新版）に基づき、ディスカッションや体験を通して、いじめ、不登校や暴力行為、キャリア教育等の教育課題を取り上げ、実践的な指導法について深める。				
到達目標	小学校教諭としての生徒指導の基本的な考え方を身に付け、実際の事例等を通して、課題への対処法を考えていく。				
評価方法	リフレクションシート、講義への参加75% 最終レポート25%				
教科書等	文部科学省『生徒指導提要』				
内 容					
第1回	ガイダンス 生徒指導の基本的な進め方				
第2回	生徒指導の意義と構造				
第3回	個別の課題に対する生徒指導① いじめ				
第4回	個別の課題に対する生徒指導② 不登校				
第5回	個別の課題に対する生徒指導③ 少年非行				
第6回	ネット社会における情報教育				
第7回	キャリア教育（5つの視点）				
第8回	キャリア教育（進路指導）の理論				
第9回	地域・社会と連携したキャリア教育				
第10回	関係機関との連携				
第11回	教育相談で活用できる様々な手法				
第12回	カウンセリングの実際				
第13回	教育相談的手法に基づく対応① ソーシャルスキルトレーニング等				
第14回	教育相談的手法に基づく対応② 保護者・地域等への対応				
第15回	まとめ(生徒指導の意義と課題)				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
教育の歴史と思想	選	山本剛	2	後期	講義
授業概要	日本及び西洋における教育の理念や思想の歴史の変遷を踏まえて、主要な教育思想や教育観を学ぶ。また、日本及び西洋の教育・学校の歴史的展開に関する基本的な事項を学ぶ。				
到達目標	教育の歴史に関する基礎的知識と多様な教育の理念を理解し、教育及び学校の時代的変遷を捉える。				
評価方法	試験70%（期末試験を課す） 講義のリアクションペーパー30%				
教科書等	授業中に適宜指示する。				
内 容					
第1回	ガイダンス 本講義の目的及び概要について				
第2回	教育に関する歴史と思想(1) 教育の起源と学校の成立				
第3回	教育に関する歴史と思想(2) 近代以前の教育思想(ソクラテス・コメニウスの思想)				
第4回	教育に関する歴史と思想(3) 近代の教育思想(ルソー・ヘストロッチの思想)				
第5回	教育に関する歴史と思想(4) 家庭や子どもに関わる教育(フレベル・アリスの思想)				
第6回	教育に関する歴史と思想(5) 学校や学習に関わる教育(デューイの思想)				
第7回	教育に関する歴史と思想(6) 学校に対する思想(ブルデュエ・パスロン・イリッチの思想)				
第8回	近代教育制度の確立(1) 西洋における近代学校教育制度の成立と展開				
第9回	近代教育制度の確立(2) 近代市民社会と公教育の歴史				
第10回	日本における近代学校教育の成立 明治・大正・昭和戦前期				
第11回	日本における学校教育の再出発 戦後教育とその展開				
第12回	教育基本法・学校教育法・学校段階別の教育目的				
第13回	現代社会における教育の課題				
第14回	海外の教育の状況				
第15回	まとめ 今後の教育の行方				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
現代教職論	選	山本剛	2	後期	講義
授業概要	教員になるためには、どのような資質能力が必要なのかを学ぶ。				
到達目標	教員として必要な資質能力を確実に身につけるとともに、教職の専門性を理解する。				
評価方法	最終レポート (70%) 講義のリアクションペーパー (30%)				
教科書等	授業中に適宜指示する。				
内 容					
第1回	ガイダンス 教職をめぐる今日的課題を探る				
第2回	優れた教員とはなにか				
第3回	教職およびその資格の歴史と現在① 戦前の師範学校制度				
第4回	教職およびその資格の歴史と現在② 開放性教員養成制度				
第5回	教職をめぐる法制				
第6回	教員に求められる役割と資質・能力① 近年の子どもの実態の把握				
第7回	教員に求められる役割と資質・能力② 学習指導				
第8回	教員に求められる役割と資質・能力③ 生活指導				
第9回	教師として人間としての成長を考える パネルディスカッション				
第10回	教師として人間としての成長を考える 全体討論				
第11回	教師の職務① 各自の決意の表明				
第12回	教師の職務② 各自の決意の表明				
第13回	教師の職務③ 各自の決意の表明				
第14回	教師の職務④ 各自の決意の表明				
第15回	全体の総括				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
学校経営論	選	山本剛	2	後期	講義
授業概要	「学校」という近代装置を理解することを主な目的として、学校経営の歴史と現状について認識を深める。また、学校経営にかかわる教育・社会の諸現象を読み解き、教育改革と学校経営への問題意識を明確にする。				
到達目標	学校経営をめぐってとくに近年大きな影響力を持ってきている「新自由主義の教育改革」に焦点を合わせ、学校経営のあり方について考察を深める。				
評価方法	最終レポート（50%）、研究発表（50%）				
教科書等	市川昭午『教育の私事化と公教育の解体』教育開発研究所、2006年、菊地栄治『他人事≡自分事』東信堂、2020年。				
内 容					
第1回	イントロダクション 「公共性」をなぜ問う必要があるか				
第2回	学校の歴史—日本				
第3回	学校の歴史—西欧				
第4回	学校制度に関する法制度				
第5回	学校経営の基本的な理解				
第6回	学校経営の成り立ち				
第7回	学校経営をめぐる諸問題				
第8回	学級経営と教育実践				
第9回	実践事例に学ぶ① 学級崩壊・いじめ				
第10回	実践事例に学ぶ② 発達障害児童の支援				
第11回	これからの学校像について				
第12回	各自のテーマ発表と議論①				
第13回	各自のテーマ発表と議論②				
第14回	各自のテーマ発表と議論③				
第15回	まとめ 授業の総括議論				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
子どもの発達過程と障害	選	池口洋一郎	2	後期	演習
授業概要	DSMやICDにおける障がいの定義に基づき、ディスカッションや体験を通して、障がいや発達障害の理解を深め、特別支援教育における現状や課題に基づいた実践的な指導法について深める。				
到達目標	小学校教諭として、特別支援教育に関する役割や基本的な考え方を身に付け、実際の事例研究を通して、課題への対処法を学ぶ。				
評価方法	リフレクションシートの記載、講義への参加75% 最終レポート25%				
教科書等	指定なし				
内 容					
第1回	ガイダンス 発達の理論① 幼児・幼児期までの発達過程				
第2回	発達の理論② 児童期・青年期の発達過程				
第3回	障害の概念と診断基準 障害の診断基準 (DSM, ICD等)				
第4回	学習障害 (SLD) の認知・行動的特性				
第5回	自閉症スペクトラム (ASD) の分類 自閉症児の認知・行動的特性				
第6回	アスペルガー症候群について				
第7回	注意欠如・他動症 (ADHD) 児の 認知・行動的特性				
第8回	発達性協調運動障害DCDについて				
第9回	ギフテッド・2Eについて				
第10回	緘黙、吃音への支援				
第11回	知的障害児の認知・行動的特性				
第12回	発達障害に関する課題事例検討				
第13回	発達に関するアセスメント 1 知能検査 (WISC) の読み取り方				
第14回	発達に関するアセスメント 2 知能検査を基にした助言の在り方				
第15回	発達過程とさまざまな障害に関する理解のまとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態	
小学校インターンシップ	必	山本剛	5	通年	実習	
授業概要	インターンシップ実践校において、通年で指導体験を実施する。					
到達目標	小学校の役割や機能について具体的に学び、教職意欲の向上を図ることができる。					
評価方法	実習報告書、評価書の内容、中間発表会、最終発表会を中心として成績評価を行う。					
教科書等	実習校において資料配付を行う。					
内 容						
第1回	インターンシップの目的、意義、内容の理解（前期）					
第2回	インターンシップに向けての生徒理解と実践方法①					
第3～17回	インターンシップ実施校においての実習① 第3回～第17回<50分×2×15回>					
第3～17回	インターンシップ実施校においての実習① 第3回～第17回<50分×2×15回>					
第3～17回	インターンシップ実施校においての実習① 第3回～第17回<50分×2×15回>					
第3～17回	インターンシップ実施校においての実習① 第3回～第17回<50分×2×15回>					
第18回	第18回 前期の振り返りとまとめ					
第19回	第19回 インターンシップの成果の課題の中間発表会					
第20回	第20回 インターンシップの目的、意義、内容の理解（後期）					
第21回	第21回 インターンシップでの生徒理解と実践方法②					
第22～36回	インターンシップ実施校においての実習② 第22回～第36回<50分×2×15回>					
第22～36回	インターンシップ実施校においての実習② 第22回～第36回<50分×2×15回>					
第22～36回	インターンシップ実施校においての実習② 第22回～第36回<50分×2×15回>					
第37回	第37回 後期の振り返りとまとめ					
第38回	第38回 インターンシップの成果の最終発表会					
備考						

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
国語科教材研究と授業づくり	選	長田信彦	2	前期	演習
授業概要	小学校国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について指導細案の作成を通して追究し、実践的な指導力を身につける。				
到達目標	①小学校国語科教育の目標と内容を理解し、指導力を身につける。 ②現場で実践できる国語科教育の指導方法を身につける。 ③各領域の学習指導細案を作成し、授業構想力を身につける。				
評価方法	国語科教育に関する自己の学びのまとめと発表50%、提出物30%、議論への参加時の態度20%				
教科書等	『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版、最新版/森田信義他				
内 容					
第1回	ガイダンス 授業の計画・進め方・評価の仕方について				
第2回	小学校下学年の文学的作品を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第3回	小学校下学年の文学的作品を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第4回	作成した指導細案を使って模擬授業を行い、考察する。				
第5回	小学校下学年の説明的文章を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第6回	小学校下学年の説明的文章を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第7回	作成した指導細案を使って模擬授業を行い、考察する。				
第8回	小学校高学年の文学的作品を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第9回	小学校高学年の文学的作品を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第10回	作成した指導細案を使って模擬授業を行い、考察する。				
第11回	小学校高学年の説明的文章を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第12回	小学校高学年の説明的文章を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第13回	作成した指導細案を使って模擬授業を行い、考察する。				
第14回	小学校国語科教育に関する自己の学びをまとめる。				
第15回	自己の学び(研究レポート)の発表と振り返り。				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
社会科教材研究と授業づくり	選	山本剛	2	前期	演習
授業概要	小学校社会科の目標と内容及び具体的な授業設計を理解し、模擬的授業を実施する。				
到達目標	小学校社会科の目標と内容に関する全体構造及び指導上の留意点をふまえた学習指導と評価の考え方を理解する。				
評価方法	最終レポート50%、平常点評価:50% (小課題と小レポート発表・学習指導案の作成・コメントなどによる)				
教科書等	文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年3月告示)』2017年。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』2017年。				
内 容					
第1回	学習指導要領等の改訂と社会科の歴史				
第2回	現行学習指導要領の構成と検討				
第3回	第3学年社会科学習と学習指導要領の検討				
第4回	第4学年社会科学習と学習指導要領の検討				
第5回	第5学年社会科学習と学習指導要領の検討				
第6回	第6学年社会科学習と学習指導要領の検討				
第7回	社会科教育の背景となる学問領域と教材研究(1) 社会科の基本方針				
第8回	社会科教育の背景となる学問領域と教材研究(2) 地理歴史の基本方針				
第9回	社会科教育の背景となる学問領域と教材研究(3) 公民科の基本方針				
第10回	社会科授業の構想(1) 第3学年・第4学年の構想				
第11回	社会科授業の構想(2) 第5学年の構想				
第12回	社会科授業の構想(3) 第6学年構想				
第13回	模擬授業(1)				
第14回	模擬授業(2)				
第15回	まとめ、各自のレポートの口頭発表				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
体育科教材研究と授業づくり	選	角杉美恵子	2	前期	演習
授業概要	『小学校学習指導要領 体育』の各領域の内容構成を理解し、授業構成に向けての基礎的・基本的知識を理解し教材を研究する。各領域の授業を構想し、演習(体育実技、模擬授業)を通して、教員に求められている実践的指導力の基礎を培うとともに、集団的活動を通して仲間と協力する態度や思考力、コミュニケーション能力を高める。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各領域の内容構成や指導に必要な安全管理(リスクマネジメント)について説明できる。 研究協議等に積極的に参加し、相互評価することができる。 指導者(教員)としての資質向上を図るための実践力を修得するとともに、実技指導に必要な模範を示すことができる。 				
評価方法	課題レポート(知識・理解)50%、課題の発表(思考・判断・表現)30%、平常点(主体性、意欲・関心・態度)20%				
教科書等	文部科学省『小学校学習指導要領解説「体育編」』 東山書房 文部科学省『小学校体育(運動領域)まるわかりハンドブック』 大修館書店『初等体育授業づくり入門』 岩田靖, 吉野聡, 日野克博, 近藤智靖編著				
内 容					
第1回	オリエンテーション ・授業の進め方 ・運動領域の構成と安全管理等について・授業指導案の作成			ICTの活用と 指導法の工夫 演習 模擬授業 運動が苦手な子への指導の工夫 リスクマネジメント KJ法 ロールプレイング	
第2回	体づくり運動系領域・「準備運動、整理運動」「整列・集団行動」「ラジオ体操」についての理解と実技				
第3回	・「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動」「体の動きを高める運動」の理解と実技・10分間の準備運動について考えをまとめる。				
第4回	陸上運動系領域・「短距離走・リレー、ハードル走」「走り幅跳び」「走り高跳び」の理解と実技				
第5回	陸上運動系領域・「短距離走・リレー、ハードル走」「走り幅跳び」「走り高跳び」の授業構想と実技				
第6回	表現運動系領域・「表現」「リズムダンス」「フォークダンス」の特性の理解及び指導内容と実技				
第7回	表現運動系領域・「表現」「リズムダンス」「フォークダンス」の授業構想と演習				
第8回	器械運動系領域・「マット運動」「跳び箱運動」「鉄棒運動」の理解と実技、グループ練習の活用				
第9回	器械運動系領域・「マット運動」「跳び箱運動」「鉄棒運動」の理解と実技、下位の運動の工夫				
第10回	ボール運動系領域・「ボールゲーム、鬼遊び」「ゴール型、ネット型、べ-スボール型」の理解と実技				
第11回	ボール運動系領域・「ボールゲーム、鬼遊び」「ゴール型、ネット型、べ-スボール型」の授業構想と演習				
第12回	水泳運動系領域 水泳運動系の特性の理解、学習指導の工夫 安全管理・危機管理についての理解				
第13回	各運動領域のまとめと「よい体育授業」についての探究				
第14回	模擬授業の実践を通して学んだことの整理と研究 PDCAマネジメントサイクルについて				
第15回	日頃の実践を振り返り、目指す教師像や目指す児童像を構築し発表する。				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
外国語教材研究と授業づくり	選	新庄恵子	2	前期	演習
授業概要	小学校における外国語活動・外国語に関して、音声指導としての重要な歌やフォニックスを取り上げ、その理論と実践を学ぶ。児童が楽しみながら英語を学ぶことができる指導方法や活動内容を検討し、教材研究及び授業づくりを行う。				
到達目標	①小学校外国語教育の指導方法の基礎知識を習得し、他者に説明することができる。 ②英語教育の理論に基づき、授業の指導計画を作成し実践することができる。 ③効果的な指導方法を研究し実践することができる。				
評価方法	授業内での取組（模擬授業、発表等）：40%、課題の提出状況：30%、 期末レポート：30%				
教科書等	教科書：授業内で適宜、資料配布及び指示する。 参考書：文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編」平成29年7月				
内 容					
第1回	オリエンテーション ・授業のねらいと課題設定、評価等について				
第2回	学習指導要領の理解① ・外国語活動・外国語の目的と目標				
第3回	学習指導要領の理解② ・外国語活動・外国語の意義				
第4回	教材の構成と内容				
第5回	指導目標、年間指導計画について				
第6回	言語材料と4技能の指導				
第7回	教材研究①・題材選定や教材研究方法について ・自作教材の作成				
第8回	教材研究②・ICTを活用した教材について ・児童の興味関心を高める教材作成				
第9回	教材研究③ ・自作の教材について発表				
第10回	学習指導案作成①				
第11回	学習指導案作成②				
第12回	第12～第14回 模擬授業①②③ ・学習指導案に即した模擬授業、講評				
第13回	第12～第14回 模擬授業①②③ ・学習指導案に即した模擬授業、講評				
第14回	第12～第14回 模擬授業①②③ ・学習指導案に即した模擬授業、講評				
第15回	英語教育に関するディスカッション、まとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
算数科教材研究と授業づくり	選	池口洋一郎	2	後期	演習
授業概要	小学校算数科における5つの領域に関連させ、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通すことにより、数学的に考える資質・能力を育成する指導法について深める。				
到達目標	教科書の単元、授業の展開についてグループワークを通して内容を深め、授業計画を立案し模擬授業を実施し、実践力を高める。				
評価方法	リフレクションシート講義への参加50% 指導案作成・模擬授業50%				
教科書等	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編 文部科学省				
内 容					
第1回	ガイダンス 講義のねらいと課題設定、評価について				
第2回	小学生の知的発達の特徴				
第3回	小学校学習指導要領（算数科）の研究① 整数における数学的活動と資質・能力				
第4回	小学校学習指導要領（算数科）の研究② 平面・立体図形における数学的活動と資質・能力				
第5回	小学校学習指導要領（算数科）の研究③ 変化と関係における数学的活動と資質・能力				
第6回	算数的教材と指導内容の研究① 計算の仕方における数学的活動と資質・能力				
第7回	算数的教材と指導内容の研究② 図形の計量における数学的活動と資質・能力				
第8回	算数的教材と指導内容の研究③ 測定における数学的活動と資質・能力				
第9回	授業参観による授業研究				
第10回	授業参観に基づく模擬授業の研究				
第11回	模擬授業に向けての指導案検討①				
第12回	模擬授業に向けての指導案検討②				
第13回	模擬授業①				
第14回	模擬授業②				
第15回	研究のまとめと発表				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
音楽科教材研究と授業づくり	選	松田扶美子	2	後期	演習
授業概要	①児童の音楽表現の実態を把握し、支援の手立て、授業づくりの実践を行う。 ②教材研究と指導体験を通して小学校音楽科に必要な知識を身につける。				
到達目標	①小学校における音楽科の授業づくりに関する基本的な知識・内容及び指導技術の修得。 ②グループワークに主体的に参加し、ほかの学生の演奏及び指導法の工夫や良さを評価することができる。				
評価方法	参加・取り組み40%、発表50%、レポート課題10%				
教科書等	小学校音楽科教育法				
内 容					
第1回	ガイダンス・授業の内容と進め方				
第2回	音楽を形作っている要素について (指揮など実技指導の基礎)				
第3回	歌唱の教材分析と指導法の検討				
第4回	歌唱の模擬授業について				
第5回	音楽科の授業づくり・学級づくり				
第6回	器楽の指導法(リコーダー)				
第7回	器楽の指導法(鍵盤ハーモニカ)				
第8回	器楽教材の分析と指導法の検討				
第9回	鑑賞の指導法①(聴くポイントの焦点化)				
第10回	鑑賞の指導法①(聴くポイントの焦点化)				
第11回	日本の音楽に関わる指導法 (わらべうたを中心に)				
第12回	音楽づくりの教材研究と指導法の検討				
第13回	指導案作成				
第14回	指導案の作成のまとめ・実技発表				
第15回	まとめ・実技発表と振り返り				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
図画工作科教材研究と授業づくり	選	教授 有福一昭	2	後期	演習
授業概要	さまざまな材料・素材を特徴を活かし、造形技法を探究し、授業づくりに取り入れられるように生かせるようになる。				
到達目標	紙、木、土、布、金属、プラスチックなどさまざまな素材の特性を理解し、個々の造形表現に活かし、授業に取り入れるようになる。				
評価方法	作品50%、レポート等の提出物、発表40%、授業態度10%				
教科書等	なし、授業内で適宜、資料配布する。				
内 容					
第1回	オリエンテーション ・授業のねらいと内容、受講の留意点				
第2回	素材研究-紙1 ・紙を使った造形材料としての紙の表現				
第3回	素材研究-紙2 ・和紙、洋紙等を使った造形材料としての紙の表現				
第4回	素材研究-木1 ・木を使った造形活動1(製材を使った作品)				
第5回	素材研究-木2 ・木を使った造形活動2(自然素材を活用した作品)				
第6回	素材研究-土1 ・土の可塑性を生かした造形活動1(可塑性の表現)				
第7回	素材研究-土2 ・土の可塑性を生かした造形活動2(その他の様態)				
第8回	技法探究-版画1 ・版画技法体験(紙、木版等) 構想・スケッチ				
第9回	技法探究-版画2 ・版画技法体験(紙、木版等) 制作(転写・彫り)				
第10回	技法探究-版画3 ・版画技法体験(紙、木版等) 制作(彫り)				
第11回	技法探究-版画4 ・版画技法体験(紙、木版等) 制作(摺り)				
第12回	鑑賞 ・鑑賞ボード等を使った鑑賞法(ICT機器の活用含)				
第13回	模擬授業準備1 ・模擬授業のための見本作り(材料設定等の準備)				
第14回	模擬授業準備2 ・模擬授業のための見本作り(制作、記録)				
第15回	・模擬授業発表(ICT機器の活用含)				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
特別の教科道徳 教材研究と授業づくり	選択	石井友行	2	1	講義 演習
授業概要	「特別の教科道徳」、「道徳教育」に関して小学校学習指導要領に示された内容を理解した上で、講義やインターンシップ、模擬授業実践等を通して指導力の向上を図る。				
到達目標	①「特別の教科道徳」のねらいと内容への理解を深める。 ②「特別の教科道徳」の特質にあった指導法を身につける。				
評価方法	・インターンシップ等への主体的な取り組み ・学修内容のプレゼンテーション ・模擬授業実践の内容 ・期末レポート				
教科書等	小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編				
内 容					
第1回	道徳授業見学 有明小学校道徳授業地区公開講座	見学			
第2回	オリエンテーション 学習指導要領「特別の教科 道徳」の目標、内容項目	講義 演習			
第3回	道徳教育と道徳科	講義 演習			
第4回	道徳教育に求められていること（討論）	講義 演習			
第5回	内容「A 主として自分自身に関する事」	講義 演習			
第6回	内容「B 主として人との関わりに関する事」	講義 演習			
第7回	内容「C 主として集団や社会との関わりに関する事」	講義 演習			
第8回	内容「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事」	講義 演習			
第9回	指導計画の作成 全体計画、指導案	講義 演習			
第10回	授業の実際：模擬授業	演習			
第11回	授業の実際：模擬授業	演習			
第12回	授業の実際：模擬授業	演習			
第13回	授業の振り返り（PDCAサイクル）	講義 演習			
第14回	「特別の教科道徳」における評価	講義 演習			
第15回	学修のまとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
芸術と表現(ピアノ)	選	伊藤菜々子	2	前期	演習
授業概要	鍵盤楽器の歴史や様々な音楽ジャンルを探求しながら、ピアノの表現や基礎技術を身に付ける。また、実技発表を通して自身の演奏技術を向上させ、ピアノに親しみを持つことを目指す。				
到達目標	①鍵盤楽器の種類や音楽の歴史について理解し、音楽の多様性を理解する。 ②演奏曲目選定から実技発表までの準備過程を通じて、自身の演奏スキルと表現力を高める ③ピアノ演奏を通じて、自己表現し、音楽の楽しさを共有する。				
評価方法	・授業内での取り組み・実技演奏発表 ・プログラムノート・授業外での取り組み				
教科書等					
内 容					
第1回	ガイダンス (学習方法や効果的な練習方法の紹介)				
第2回	鍵盤楽器について (クラヴィコード・チェンバロ・オルガンの紹介)				
第3回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲①(バロック)				
第4回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲②(古典派)				
第5回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲③(ロマン派)				
第6回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲④(近現代)				
第7回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲⑤(映画音楽)				
第8回	実技演奏研究①(曲目の検討・選定)				
第9回	実技演奏研究②(曲目の知識と理解)				
第10回	実技演奏研究③(楽曲分析)				
第11回	実技演奏研究④(アンサンブル研究)				
第12回	実技演奏練習①(読譜)				
第13回	実技演奏練習②実技演奏練習②				
第14回	実技演奏練習③(リハーサル)				
第15回	実技演奏発表・まとめと振り返り				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
芸術と表現（声楽）	選	松田扶美子	2	前期	演習
授業概要	①声楽の基礎的な演奏技術と表現方法を学ぶことを通し、音楽性、音楽的実践力を身につける。 ②各自の進度に合わせた個人レッスン及びアンサンブル等の実践を行う。				
到達目標	①声楽の曲に応じた発声法・呼吸法・演奏技術を身に付けることができる。 ②曲の構成を知り、演奏表現につなげることができる。				
評価方法	実技試験（演奏の声楽さ、技術の達成度、音楽性）70%、 提出物10%、 日常の取り組み20%				
教科書等	新・声楽指導教本（教育芸術社）				
内 容					
第1回	ガイダンス・授業の内容と進め方				
第2回	声楽に必要な身体の仕組み・呼吸法・使い方について				
第3回	声楽に必要な呼吸法・発声について（話し声・歌声）				
第4回	様々なジャンルの曲の構成、背景を知る（ミュージカル・ジャズ・ポップス・童謡・演歌・子どもの歌等）				
第5回	課題曲の読譜①（曲の構成理解）				
第6回	課題曲の読譜②（様式の特徴を理解し、留意点を考察する）				
第7回	様々な演奏を聴くことにより、自分の表現の幅を広げる（実践）				
第8回	様々な演奏を聴くことにより、自分の演奏表現につなげる（応用）				
第9回	課題曲の仕上げ				
第10回	アンサンブルの基礎				
第11回	アンサンブルを楽しむ実践				
第12回	アンサンブルを楽しむ応用				
第13回	発表のための練習①				
第14回	発表のための練習②				
第15回	実技発表・まとめ・振り返り				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
芸術と表現（和楽器）	選	非常勤講師 坂田舞子	2	後期	演習
授業概要	日本における伝統的な和楽器（三味線・箏・小鼓・太鼓など）の技術・知識を習得する。日本人ならではの感性で森羅万象を表現した歌舞伎の黒御簾音楽を実際に演奏することによって、芸術表現の多角的な視野を広げ、豊かな感性を培い、自国の伝統芸能に対する理解を一層深める。				
到達目標	歌舞伎音楽（黒御簾音楽）の合奏ができる。各楽器の調整ができる。義務教育における邦楽授業への対応力を身につける。				
評価方法	実技による授業のため、出席により知識と技能を修得することが重要である。出席点30%、平常点（授業中の取り組みの様子・小レポート）30%、実技試験30%、特別加点10%に配分し、計100%で評価する。				
教科書等	必要に応じてプリントを配布する				
内 容					
第1回	ガイダンス 芸術と表現（和楽器）の概要説明				
第2回	歌舞伎の黒御簾音楽について				
第3回	三味線の調整の仕方・奏法				
第4回	三味線で黒御簾音楽を弾く① 「千鳥の合方」奏法の習得				
第5回	三味線で黒御簾音楽を弾く② 「千鳥の合方」奏法の習得				
第6回	小鼓、締太鼓、大太鼓の奏法				
第7回	囃子で黒御簾音楽を打つ①「千鳥の合方」小鼓の奏法の習得 「水音」「波音」大太鼓奏法の習得				
第8回	囃子で黒御簾音楽を打つ②「早笛」締太鼓の奏法習得				
第9回	箏の調整の仕方・奏法				
第10回	箏で黒御簾音楽を弾く①「八千代獅子」奏法の習得				
第11回	箏で黒御簾音楽を弾く②「八千代獅子」奏法の習得				
第12回	合奏演習①				
第13回	合奏演習②				
第14回	合奏演習③				
第15回	実技試験（小レポートを提出）				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
芸術と表現(アニメーション)	選	伊垣京子	2	後期	演習
授業概要	アニメーション作品を鑑賞・分析・再現をし、制作することにより映像表現の方法を探り、関心をたかめる。				
到達目標	コマ撮りアニメーション作品を制作し、発表をすることで表現力を養う。				
評価方法	課題提出80% 授業態度20%				
教科書等	各回ごとにプリント配布・資料を提示する。				
内 容					
第1回	ガイダンス				
第2回	アニメーションの鑑賞				
第3回	アニメーションの分析				
第4回	アニメーションの1シーンを再現(準備)				
第5回	アニメーションの1シーンを再現(撮影)				
第6回	コマ撮りアニメーション(絵コンテ作り)				
第7回	コマ撮りアニメーション(キャラクターデザイン)				
第8回	コマ撮りアニメーション(キャラクター制作)				
第9回	コマ撮りアニメーション(道具作り)				
第10回	コマ撮りアニメーション(背景作りと撮影)				
第11回	コマ撮りアニメーション(撮影)				
第12回	コマ撮りアニメーション(撮影から編集)				
第13回	コマ撮りアニメーション(編集と音入れ)				
第14回	コマ撮りアニメーション(作品の完成と発表準備)				
第15回	制作した作品の発表と講評				
備考	課題で必要な道具や材料は各自準備すること。 コマ撮りアニメーションを行う際にはStop Motion(無料)アプリを使用予定				

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
情報教育と社会	情報:必修 他:選択	伊庭 崇	2	前期	講義
授業概要	メディアが学校教育やそれを取り巻く社会にどのような影響をもたらしているのかを考察し、子どもとデジタルメディアの関わりを考える。				
到達目標	ICT、デジタルメディア、AI等と社会との関わりを学び、情報社会への対処の方法を考えることができる。				
評価方法	授業内での取り組み(50%)、課題(30%)、レポート(20%)				
教科書等	必要に応じて、担当教員より提示する。				
内 容					
第1回	イントロダクション 現代社会におけるICTの役割				
第2回	視聴覚メディアの歴史 コンピュータ活用の歴史				
第3回	先端技術の活用				
第4回	情報活用能力				
第5回	社会に必要なICT活用能力 ICT活用を支える資質と能力				
第6回	個別最適化に向けたICT活用				
第7回	対話・協働を支えるICT				
第8回	幼児におけるICT活用 障がい者におけるICT活用				
第9回	デジタルコンテンツの役割				
第10回	表現能力を高めるためのICT活用 課題作成1				
第11回	表現能力を高めるためのICT活用 課題作成2				
第12回	ICTによるリモートの可能性 【オンライン授業】				
第13回	情報モラル・情報セキュリティ 【オンライン授業】				
第14回	表現能力を高めるためのICT活用 課題作成3				
第15回	課題発表, まとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
情報科学実践演習A (動画作成)	情報:必修 他:選択	Reiji	2	前期	演習
授業概要	動画制作を通して、物事の見方や伝え方、表現方法などを考察する。受け手の視点で物事を考えられる多角的な思考を学ぶ。				
到達目標	制作する動画の目的、表現方法、与える影響や印象を学び、動画制作企画書を作成。実践で企画書に沿った動画の制作を行う。				
評価方法	授業態度、実践の態度、作成した動画内容で総合的に評価する。				
教科書等	動画編集ソフト				
内 容					
第1回	オリエンテーション 授業のねらいと評価について				
第2回	動画制作企画書の作成(1) 作成する動画の目的を考察する				
第3回	動画制作企画書の作成(2) 作成する動画の表現方法を考察する				
第4回	動画制作企画書の作成(3) 目的や表現方法を決め、企画書をまとめる				
第5回	動画制作企画書の作成(4) 視聴者の視点で自身の企画書を評価する				
第6回	動画編集ソフト学習(1) 基礎知識、基本操作の学習				
第7回	動画編集ソフト学習(2) 編集操作の学習(テロップやカットなど)				
第8回	動画作成(1) 素材集め～整理、撮影準備～撮影				
第9回	動画作成(2) 撮影～撮影済素材の加工、作業目安の整理				
第10回	動画作成(3) 編集ソフトを使用し動画の制作①				
第11回	動画作成(4) 編集ソフトを使用し動画の制作②				
第12回	動画作成(5) 編集ソフトを使用し動画の制作③				
第13回	動画作成(6) 編集ソフトを使用し動画の制作④				
第14回	動画完成、まとめ 書き出し、 上映回、作品プレゼン、作品評価				
第15回	講義まとめ自己評価				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
情報科学実践演習B (ゲームプログラミング)	情報:必修 他:選択	Reiji	2	後期	演習
授業概要	Unity を使用して、ゲームプログラミングの基礎を学ぶ。 言語はC#を学び、使用する				
到達目標	①ゲームプログラミングの基礎を理解する。 ②C#言語の基礎を理解し、プログラムの作成ができる。 ③2Dゲームプログラミングに必要な処理を適切に構築できる。				
評価方法	文献や資料の講読、演習などの課題を課し、授業への取組や授業内の課題、提出物等で評価する。				
教科書等	必要に応じて、担当教員より提示する。				
内 容					
第1回	授業ガイダンス				
第2回	Unity について Unityの概要、基本操作の説明、小課題				
第3回	Unity について 共通課題作成				
第4回	Unity について 共通課題作成				
第5回	C# について C#の概要、変数についての説明、小課題				
第6回	C# について 関数についての説明、小課題				
第7回	C# について クラスについての説明、小課題				
第8回	Unity + C# 基本プログラムの小課題				
第9回	Unity + C# 基本プログラムの小課題				
第10回	Unity + C# 基本プログラムの小課題				
第11回	オリジナルゲーム作成 考案、設計				
第12回	オリジナルゲーム作成 プログラミング構築				
第13回	オリジナルゲーム作成 プログラミング構築				
第14回	オリジナルゲームの相互試演、及びゲームイベント企画				
第15回	まとめと授業の総括(含 確認テスト)				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
情報科学実践演習C (情報の発信と収集)	情報:必修 他:選択	佐野匡	2	後期	演習
授業概要	SNSやSEO等の活用について必要なリテラシーを習得し、適切な情報の発信や収集の在り方について学びます。				
到達目標	①SNSやSEO等を適切に活用することを通して、情報の発信や収集についての基礎的な知識を理解することができる。②利用内容に合わせた応用力を身に付け、目的にあった活用ができる。③日常の活動において、身に付けた技術を活用しようとする。				
評価方法	課題への取り組み状況・提出状況80%、授業内試験20%、				
教科書等	指定しない				
内 容					
第1回	オリエンテーション 授業内容-目的-計画-評価方法法の確認等				
第2回	SNSの現状と課題 SNSの現状について、自分の周りの状況と比較				
第3回	遠隔会議システムの活用 遠隔会議システム、メタバースを体験し、活用の可能性について考察				
第4回	SNSの特徴と活用法 SNSの種類や特徴を知るとともに、現在の運用状況を調査				
第5回	SNS活用の実際① SNS活用のための企画・設計と、情報リテラシーについての確認				
第6回	SNS活用の実際② SNSにより発信をするための準備				
第7回	SNS活用の実際③ SNSの運用を実際に行う				
第8回	SNS活用の実際④ 企画・設計にもとづいた効果の検証				
第9回	SNS活用の実際⑤ 検証した結果に合わせた改善				
第10回	SEOの基礎検索 エンジン最適化 (SEO) の理解				
第11回	SEOの実際① SEO対策の実践をする。				
第12回	SEOの実際② SEO対策を行った結果の検証と改善				
第13回	情報の発信と収集① 各自でテーマを決め、そのテーマに沿った実践をする。				
第14回	情報の発信と収集② 各自がテーマを決め、そのテーマに沿った実践をする。				
第15回	まとめ テーマに沿って行った実践についてレポートするとともに、授業内試験を行う。				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態	
修了研究	必	教授 池口洋一郎 教授 深澤瑞穂 准教授 山本剛	4	通年	演習	
授業概要	受講学生は、教育学の基礎理論に関連してこれまでの授業、実習等を通して生じた興味・関心を基に、各自の研究テーマを設定し、担当教員の指導のもと研究に取り組む。研究の経過については教員からの指導と学生同士の質疑応答を通して随時省察を行う。研究を通しての学修成果については、中間発表会、研究成果発表会を得て、論文として提出する。 【クラス分け方式】					
到達目標	①教育学または子ども教育学の方法に基づき調査研究を行った上で、客観的に結果を把握し、論考することができる。 ②自らの研究成果を他者に伝えるためのプレゼンテーション能力を身につける。 ③調査・研究の実践の中で教育学・子ども教育学に基いた子ども理解の方法を身につける。					
評価方法	中間発表・修了研究の論文内容及び口頭発表					
教科書等	学生のテーマに沿って適宜に資料を配布					
内 容						
第 1 回	ガイダンス 専攻科担当教員がそれぞれ専門分野についてのガイダンスを開いて、学生のテーマを決定し、翌週までに暫定的にゼミ教員を決定する。					
第 2 回	研究テーマについての検討 ゼミごとのセミナー					
第 3～4 回	先行研究の調査(1) 各自がテーマと関わる研究文献の検討					
第 5～6 回	先行研究の調査(2) 検討結果を発表					
第 7～8 回	テーマ設定 テーマと内容に関する構成図作成(1)					
第 9 回	テーマと内容に関する構成図作成(2)					
第 10～11 回	序論の作成 研究の動機と目的、用語の定義					
第 12～14 回	本論の作成 先行研究・研究対象の分析など					
第 15 回	中間発表					
第 16～20 回	本論の作成					
第 21～24 回	結論の作成 結論の導き方・引用参考文献リストの作り方					
第 25～27 回	本論まとめ作成					
第 28～30 回	口頭発表					
備考						

有明教育芸術短期大学 専攻科 シラバス目次

幼児教育 コース

区分	形態	担当者	授業科目	単位数	開設学期	必修・選択	頁		
専門科目	教育心理学に関する科目	演習	石井	特別活動研究	2	前	4科目 8単位 以上選択	1	
		演習	伊庭	教育技術とICT	2	前		2	
		講義	池口	生徒指導論	2	前		3	
		講義	山本	教育の歴史と思想	2	後		4	
		講義	山本	現代教職論	2	後		5	
		講義	山本	学校経営論	2	後		6	
		講義	池口	子どもの発達過程と障害	2	後		7	
		実習	深澤	幼稚園インターンシップ	5	通年	必修	9	
	幼児教育・保育に関する科目	演習	赤坂	保育内容研究「人間関係」	2	前	6科目 12単位 以上選択	19	
		演習	信太	保育内容研究「環境」	2	前		20	
		演習	有福	保育内容研究「造形表現」	2	前		21	
		演習	山本	幼児教育・保育施設運営論	2	前		22	
		演習	角杉	保育内容研究「健康」	2	後		23	
		演習	長田	保育内容研究「言葉」	2	後		24	
		演習	山田	保育内容研究「音楽表現」	2	後		25	
		演習	角杉	幼児体育理論と実践	2	後		26	
	関連科目	芸術に関する科目	演習	伊藤	芸術と表現（ピアノ）	2	前	2科目 4単位 以上選択	28
			演習	松田	芸術と表現（声楽）	2	前		29
			演習	坂田	芸術と表現（和楽器）	2	後		30
演習			伊垣	芸術と表現（アニメーション）	2	後	31		
情報科学に関する科目		講義	伊庭	情報教育と社会	2	前	32		
		演習	Reiji	情報科学実践演習A（動画作成）	2	前	33		
		演習	Reiji	情報科学実践演習B（ゲームプログラミング）	2	後	34		
		演習	佐野	情報科学実践演習C（情報の発信と収集）	2	後	35		
専攻に係る単位以外の科目		論文	専任3名	修了研究	4	通年	必修	36	

33単位

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
特別活動研究	選	石井友行	2	前期	講義 演習
授業概要	「特別活動」に関して小学校学習指導要領に示された内容を理解した上で、講義やインターンシップ、模擬授業実践等を通して指導力の向上を図る。				
到達目標	①「特別活動」のねらいと内容への理解を深める。 ②「特別活動」の特質にあった指導法を身につける。				
評価方法	①「特別活動」のねらいと内容への理解を深める。 ②「特別活動」の特質にあった指導法を身につける。				
教科書等	小学校学習指導要領解説 特別活動編				
内 容					
第1回	・オリエンテーション ・学習指導要領「特別活動」の目標、内容構成			講義	
第2回	・特別活動の意義（討論）			講義 演習	
第3回	・特別活動の3視点と社会における汎用性			講義 演習	
第4回	・特別活動指導の基本（指導原理）			講義 演習	
第5回	・各活動の目標及び内容（学級活動）			講義 演習	
第6回	・各活動の目標及び内容（児童会活動） ・研究実践校の研究内容について			講義 演習	
第7回	・各活動の目標及び内容（クラブ活動） ・研究実践校の検証授業のあり方について			講義 演習	
第8回	・授業の実際 研究実践校の授業見学			授業見学	
第9回	・授業の実際 研究実践校の協議会への参加			演習	
第10回	・学級活動（話し合い活動） ・研究実践校の授業見学から学んだこと			講義 演習	
第11回	・各活動の目標及び内容「学校行事」 ・「特別活動」における評価			講義 演習	
第12回	・検証授業の視点について			講義 演習	
第13回	・授業の実際 研究実践校の授業見学			授業見学	
第14回	・授業の実際 研究実践校の協議会への参加			演習	
第15回	・学修のまとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
教育技術とICT	選	伊庭 崇	2	前期	演習
授業概要	情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法について学び、実践的な指導力を育成することを目的とする。ICTを効果的に活用した学習指導や校務の推進について詳しく学ぶ。また、児童に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法の理解を深める。				
到達目標	①情報通信技術の活用の意義と理論を理解している。 ②情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解している。 ③児童等に情報活用能力(情報モラルを含)を育成するための基礎的な指導法を身に付けている。				
評価方法	文献や資料の講読、演習などの課題を課し、授業への取組や授業内の課題、提出物等で評価する。				
教科書等	必要に応じて、担当教員より提示する。				
内 容					
第1回	授業ガイダンス 情報通信技術の活用の意義と在り方				
第2回	情報活用能力を育成するための指導法				
第3回	各教科等横断的に育成する情報活用能力 理論				
第4回	各教科等横断的に育成する情報活用能力 授業考案				
第5回	各教科等横断的に育成する情報活用能力 グループ発表				
第6回	ICTを効果的に活用した授業 指導事例, 授業考案				
第7回	ICTを効果的に活用した授業 発表, 指導案作成				
第8回	表現能力を高めるためのICT活用				
第9回	ICTを活用した校務の推進 理論				
第10回	ICTを活用した校務の推進 課題作成1 文書作成や表計算, プレゼン等				
第11回	ICTを活用した校務の推進 課題作成2 配信やアンケート機能の扱い				
第12回	オンライン教育の意義と使用法 【オンライン授業】				
第13回	情報モラル・情報セキュリティ 【オンライン授業】				
第14回	情報モラル 事例課題解決考案				
第15回	まとめと授業の総括(含 確認テスト)				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
生徒指導論	選	池口洋一郎	2	前期	講義
授業概要	文部科学省『生徒指導提要』（最新版）に基づき、ディスカッションや体験を通して、いじめ、不登校や暴力行為、キャリア教育等の教育課題を取り上げ、実践的な指導法について深める。				
到達目標	小学校教諭としての生徒指導の基本的な考え方を身に付け、実際の事例等を通して、課題への対処法を考えていく。				
評価方法	リフレクションシート、講義への参加75% 最終レポート25%				
教科書等	文部科学省『生徒指導提要』				
内 容					
第1回	ガイダンス 生徒指導の基本的な進め方				
第2回	生徒指導の意義と構造				
第3回	個別の課題に対する生徒指導① いじめ				
第4回	個別の課題に対する生徒指導② 不登校				
第5回	個別の課題に対する生徒指導③ 少年非行				
第6回	ネット社会における情報教育				
第7回	キャリア教育（5つの視点）				
第8回	キャリア教育（進路指導）の理論				
第9回	地域・社会と連携したキャリア教育				
第10回	関係機関との連携				
第11回	教育相談で活用できる様々な手法				
第12回	カウンセリングの実際				
第13回	教育相談的手法に基づく対応① ソーシャルスキルトレーニング等				
第14回	教育相談的手法に基づく対応② 保護者・地域等への対応				
第15回	まとめ(生徒指導の意義と課題)				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
教育の歴史と思想	選	山本剛	2	後期	講義
授業概要	日本及び西洋における教育の理念や思想の歴史の変遷を踏まえて、主要な教育思想や教育観を学ぶ。また、日本及び西洋の教育・学校の歴史的展開に関する基本的な事項を学ぶ。				
到達目標	教育の歴史に関する基礎的知識と多様な教育の理念を理解し、教育及び学校の時代的変遷を捉える。				
評価方法	試験70%（期末試験を課す） 講義のリアクションペーパー30%				
教科書等	授業中に適宜指示する。				
内 容					
第1回	ガイダンス 本講義の目的及び概要について				
第2回	教育に関する歴史と思想(1) 教育の起源と学校の成立				
第3回	教育に関する歴史と思想(2) 近代以前の教育思想(ソクラテス・コメニウスの思想)				
第4回	教育に関する歴史と思想(3) 近代の教育思想(ルソー・ヘンリッヒの思想)				
第5回	教育に関する歴史と思想(4) 家庭や子どもに関わる教育(フレベール・アリスの思想)				
第6回	教育に関する歴史と思想(5) 学校や学習に関わる教育(デューイの思想)				
第7回	教育に関する歴史と思想(6) 学校に対する思想(ブルデュエ・パスロン・イリッチの思想)				
第8回	近代教育制度の確立(1) 西洋における近代学校教育制度の成立と展開				
第9回	近代教育制度の確立(2) 近代市民社会と公教育の歴史				
第10回	日本における近代学校教育の成立 明治・大正・昭和戦前期				
第11回	日本における学校教育の再出発 戦後教育とその展開				
第12回	教育基本法・学校教育法・学校段階別の教育目的				
第13回	現代社会における教育の課題				
第14回	海外の教育の状況				
第15回	まとめ 今後の教育の行方				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
現代教職論	選	山本剛	2	後期	講義
授業概要	教員になるためには、どのような資質能力が必要なのかを学ぶ。				
到達目標	教員として必要な資質能力を確実に身につけるとともに、教職の専門性を理解する。				
評価方法	最終レポート（70%） 講義のリアクションペーパー（30%）				
教科書等	授業中に適宜指示する。				
内 容					
第1回	ガイダンス 教職をめぐる今日的課題を探る				
第2回	優れた教員とはなにか				
第3回	教職およびその資格の歴史と現在① 戦前の師範学校制度				
第4回	教職およびその資格の歴史と現在② 開放性教員養成制度				
第5回	教職をめぐる法制				
第6回	教員に求められる役割と資質・能力① 近年の子どもの実態の把握				
第7回	教員に求められる役割と資質・能力② 学習指導				
第8回	教員に求められる役割と資質・能力③ 生活指導				
第9回	教師として人間としての成長を考える パネルディスカッション				
第10回	教師として人間としての成長を考える 全体討論				
第11回	教師の職務① 各自の決意の表明				
第12回	教師の職務② 各自の決意の表明				
第13回	教師の職務③ 各自の決意の表明				
第14回	教師の職務④ 各自の決意の表明				
第15回	全体の総括				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
学校経営論	選	山本剛	2	後期	講義
授業概要	「学校」という近代装置を理解することを主な目的として、学校経営の歴史と現状について認識を深める。また、学校経営にかかわる教育・社会の諸現象を読み解き、教育改革と学校経営への問題意識を明確にする。				
到達目標	学校経営をめぐってとくに近年大きな影響力を持ってきている「新自由主義の教育改革」に焦点を合わせ、学校経営のあり方について考察を深める。				
評価方法	最終レポート（50%）、研究発表（50%）				
教科書等	市川昭午『教育の私事化と公教育の解体』教育開発研究所、2006年、菊地栄治『他人事≡自分事』東信堂、2020年。				
内 容					
第1回	イントロダクション 「公共性」をなぜ問う必要があるか				
第2回	学校の歴史—日本				
第3回	学校の歴史—西欧				
第4回	学校制度に関する法制度				
第5回	学校経営の基本的な理解				
第6回	学校経営の成り立ち				
第7回	学校経営をめぐる諸問題				
第8回	学級経営と教育実践				
第9回	実践事例に学ぶ① 学級崩壊・いじめ				
第10回	実践事例に学ぶ② 発達障害児童の支援				
第11回	これからの学校像について				
第12回	各自のテーマ発表と議論①				
第13回	各自のテーマ発表と議論②				
第14回	各自のテーマ発表と議論③				
第15回	まとめ 授業の総括議論				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
子どもの発達過程と障害	選	池口洋一郎	2	後期	演習
授業概要	DSMやICDにおける障がいの定義に基づき、ディスカッションや体験を通して、障がいや発達障害の理解を深め、特別支援教育における現状や課題に基づいた実践的な指導法について深める。				
到達目標	小学校教諭として、特別支援教育に関する役割や基本的な考え方を身に付け、実際の事例研究を通して、課題への対処法を学ぶ。				
評価方法	リフレクションシートの記載、講義への参加75% 最終レポート25%				
教科書等	指定なし				
内 容					
第1回	ガイダンス 発達の理論① 幼児・幼児期までの発達過程				
第2回	発達の理論② 児童期・青年期の発達過程				
第3回	障害の概念と診断基準 障害の診断基準 (DSM, ICD等)				
第4回	学習障害 (SLD) の認知・行動的特性				
第5回	自閉症スペクトラム (ASD) の分類 自閉症児の認知・行動的特性				
第6回	アスペルガー症候群について				
第7回	注意欠如・他動症 (ADHD) 児の 認知・行動的特性				
第8回	発達性協調運動障害DCDについて				
第9回	ギフテッド・2Eについて				
第10回	緘黙、吃音への支援				
第11回	知的障害児の認知・行動的特性				
第12回	発達障害に関する課題事例検討				
第13回	発達に関するアセスメント 1 知能検査 (WISC) の読み取り方				
第14回	発達に関するアセスメント 2 知能検査を基にした助言の在り方				
第15回	発達過程とさまざまな障害に関する理解のまとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
幼稚園インターンシップ	必	深澤瑞穂	5	通年	実習
授業概要	自分の持つ課題を明確にしてインターンシップ実施園での保育に関り、子どもの姿を通して保育の在り方を考察する。園・保育者・家庭との協力体制の中で主体的に学び、インターンシップの記録の意義と重要性を理解する。				
到達目標	①幼児理解や保育についての課題意識を明確に持つ。 ②主体的な子どもの遊びから何が育っているのかを考察する。 ③インターンシップを通して質の高い指導法を身に付ける。				
評価方法	実習報告書 評価書の内容 中間発表会 最終発表会での内容を中心として成績評価を行う。				
教科書等	関連資料を適宜活用する。 参考書「子どもに生きた人・倉橋惣三」「最新保育資料集2017」ミネルヴァ書房				
内 容					
第1～3回	第1回～第3回 事前ガイダンス ・インターンシップの目的-意義-内容について理解する ・修了研究との関連 ・インターンシップでの学習課題を設定する。 ・保育者の姿勢と関わりの視点 ・インターンシップの記録及び視点について ・インターンシップ実施園でのリエントリー				
第4～19回	第4回～第19回 【前期実習期間】《90分×2×15回》 5月～7月まで週1回2コマ保育現場で課題に向けて保育実践にあたる。 その間実践報告書を作成し、月に一度担当教員の指導を受ける。				
第20回	第20回 前期振り返りとまとめ				
第21回	第21回 インターンシップの成果と課題の中間発表会				
第22～36回	第22～36回 【後期実習期間】《90分×2×15回》 後期インターンシップ記録の内容分析・考察				
第37回	第37回 成果のまとめ				
第38回	第38回 インターンシップの成果発表会				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
保育内容研究「人間関係」	選	赤坂澄香	2	前期	演習
授業概要	各発達段階における子どもの人間関係の育ちについて詳しく学び、子どもの人と関わる力を育む保育についての知見を広げる。事例検討や教材研究・作成を通して、子どもの人間関係の発達を踏まえた支援や援助を考え、子どもに適した保育者の対応を学ぶ。さらに、事例を基にした討論等を通して、遊びや生活の中での人との関わりやその発達を支える保育者の役割について考える。				
到達目標	①子どもの人間関係の発達を踏まえた支援や援助を考え、子どもに適した保育者の対応を判断できる。 ②子どもたちが豊かな人間関係を築いていくために必要な力について考え、教材作成や指導計画を立てることができる。				
評価方法	レポート40%、授業内課題60%				
教科書等	指定しない。授業時に資料を配布する。				
内 容					
第1回	オリエンテーション 現代の保育の課題と領域「人間関係」				
第2回	領域「人間関係」のねらいと内容・指導上の留意点				
第3回	3歳児の人間関係の育ちと保育者の役割 (事例検討)				
第4回	4歳児の人間関係の育ちと保育者の役割 (事例検討)				
第5回	5歳児の人間関係の育ちと保育者の役割 (事例検討)				
第6回	子どもと保育者の関わり (エピソード記述・事例検討)				
第7回	遊びの中の人との関わり (教材研究・事例検討)				
第8回	生活を通して育つ人との関わり (エピソード記述・事例検討)				
第9回	個と集団の育ち (エピソード記述・事例検討)				
第10回	教材研究と指導計画①子どもたちが豊かな人間関係を築いていくために必要な力について考え、テーマを設定する。				
第11回	教材研究と指導計画② テーマに基づいた教材研究				
第12回	教材研究と指導計画③ テーマに基づいた教材研究				
第13回	教材研究と指導計画④ 教材作成と保育の構想				
第14回	教材研究と指導計画⑤ 保育の実践と振り返り				
第15回	領域「人間関係」のまとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
保育内容研究「環境」	選	信太朋子	2	前期	演習
授業概要	環境通して行う教育・保育、遊びを通しての総合的な指導について理解する。				
到達目標	子どもを取り巻く現状及び発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想することができる。				
評価方法	レポート・活動計画案・指導計画・実習園の環境点検・改善 演習態度				
教科書等	光生館 保育内容 環境 萌文書林 保育内容「環境」あなたならどうしますか？				
内 容					
第1回	授業ガイダンス 本授業の概要 年間の見通し				
第2回	子どもの発達と環境Ⅰ 乳児の育ちと環境				
第3回	子どもの発達と環境Ⅱ 幼児の育ちと環境				
第4回	子どもと園の環境 園庭・保育室等の環境				
第5回	教材の工夫と環境構成 好奇心・探求心を育む教材				
第6回	園外の環境 子どもを取り巻く環境の影響				
第7回	子どもを育む学級 子どもを育む学級集団				
第8回	自然との関わり・生命尊重 直接体験、生命への関心 センスオブワンダー				
第9回	多様性 保育における多様性				
第10回	気候変動の影響 気候変動の影響と保育内容				
第11回	園環境の現状と改善の計画Ⅰ 課題レポートⅠ				
第12回	園環境の現状と改善の計画Ⅱ インターンシップ園の環境				
第13回	理念から環境づくりへ 望ましい園環境				
第14回	今後の保育 課題レポートⅡ				
第15回	指導計画の作成と評価 発表とまとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
保育内容研究「造形表現」	選	教授 有福一昭	2	前期	演習
授業概要	造形表現における材料・素材、造形技法を実践的に学ぶ。				
到達目標	保育における造形活動の意味を理解し、さまざまな造形表現の知識、技法を身につけ感性を高める。子どもの年齢に応じた造形指導、およびそのための素材研究、指導案作成ができるようになる。				
評価方法	作品50%、レポート等の提出物、発表40%、授業態度10%				
教科書等	なし、授業内で適宜、資料配布する。				
内 容					
第1回	オリエンテーション ・授業のねらいと内容、受講の留意点				
第2回	幼児の造形表現について ・幼児の造形表現活動の特徴と保育者の関わり				
第3回	幼児のための造形活動1 ・幼児を取り巻く造形要素について(絵本、玩具等)				
第4回	幼児のための造形活動2 ・紙を使った造形活動				
第5回	幼児のための造形活動3 ・絵の具を使った描画表現による造形活動				
第6回	幼児のための造形活動4 ・紙とそのほかの身近材料を組み合わせた造形活動				
第7回	幼児のための造形活動5 ・紙以外の身近材料を生かした造形活動				
第8回	造形環境を考える1 ・道具と技法の関係を結びつけた造形活動				
第9回	造形環境を考える2 ・季節行事をテーマとした造形活動1(春・夏)				
第10回	造形環境を考える3 ・季節行事をテーマとした造形活動2(秋・冬)				
第11回	造形環境を考える4 ・科学的要素をテーマとした造形活動1(音)				
第12回	造形環境を考える5 ・科学的要素をテーマとした造形活動2(光)				
第13回	模擬授業準備1 ・模擬授業のための見本作り(材料設定等の準備)				
第14回	模擬授業準備2 ・模擬授業のための見本作り(制作、記録)				
第15回	模擬授業発表 ・模擬授業発表(ICT機器の活用含)				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
幼児教育・保育施設運営論	選	山本剛	2	前期	演習
授業概要	就学前教育・保育に関する社会的、制度的または経営的事項について、基礎的な知識を身につける。				
到達目標	現代の教育（保育）を支える制度について知り、それを踏まえたうえで園での教育（保育）活動を円滑に行うための要件について理解する。				
評価方法	最終レポート（70%） 講義のリアクションペーパー（30%）				
教科書等	授業中に適宜指示する。				
内 容					
第1回	近年の教育課題とそれに対応する教育政策				
第2回	幼児教育・保育実践の体系的理解への公教育制度論				
第3回	公教育と保育に係る法律と行政の基本構造① 戦後教育改革と教育基本法・学校教育法				
第4回	公教育と保育に係る法律と行政の基本構造② 戦後教育改革と児童福祉法				
第5回	保育所保育指針の性格と位置づけ				
第6回	幼稚園教育要領の性格と位置づけ				
第7回	幼保連携型認定こども園教育保育要領の性格と位置づけ				
第8回	小学校との接続				
第9回	地域・家庭との連携と子育て支援				
第10回	現代における園の経営課題① 学校づくりと子ども・保護者・地域住民				
第11回	現代における園の経営課題② 地域との連携と開かれた学校づくり				
第12回	園における危機管理① 家庭との連携				
第13回	園における危機管理② 生活・交通・災害時の安全管理				
第14回	目標とする保育者像				
第15回	まとめ（信頼される保育者になるために）				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
保育内容研究「健康」	選	角杉美恵子	2	後期	演習
授業概要	乳幼児の健康に関する様々な課題について、理論的な裏付けを背景に取り組んでいけるようになることを目指す。特に、乳幼児の健康をテーマにした研究論文の輪読を行い、学術的な視点からの理解を深めると共に、簡易な実験、調査を実施し、研究実践力を高める。				
到達目標	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらいと内容を理解する。①乳幼児の健康に関する現代的な課題を説明できる。②乳幼児の健康に関する最近の研究動向を理解している。③乳幼児の健康をテーマにした研究方法について理解している。				
評価方法	課題レポート(知識・理解)50%、課題の発表(思考・判断・表現)30% 平常点(主体性、意欲・関心・態度)20%				
教科書等	幼稚園教育要領解説(文部科学省)、保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省) 幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省) 健やかな育ちを支える領域「健康」上野奈初美 ミネルヴァ書房 保育内容健康 川邊貴子 建帛社				
内 容					
第1回	乳幼児の健康に関する問題の整理① ～乳幼児期の基本的な生活習慣について～				
第2回	乳幼児の健康に関する問題の整理② ～乳幼児の運動発達と遊びについて～				
第3回	乳幼児の健康に関する問題の整理③ ～保育の安全管理・教育について～				
第4回	乳幼児の健康に関する論文報告と解説① ～乳幼児の基本的な生活習慣について～				
第5回	乳幼児の健康に関する論文報告と解説② ～乳幼児の運動発達について～				
第6回	乳幼児の健康に関する論文報告と解説③ ～幼児の遊びについて～				
第7回	乳幼児の健康に関する論文報告と解説④ ～保育の安全管理・教育について～				
第8回	乳幼児の健康に関する研究の実際① 環境構成と保育者の役割 一研究計画一				
第9回	乳幼児の健康に関する研究の実際② 一食育の環境と保護者支援一 実験・調査の準備一				
第10回	乳幼児の健康に関する研究の実際③ 一健康・病気一実験・調査の実施 ※フィールドワーク有				
第11回	乳幼児の健康に関する研究の実際④ 一子どもの体力づくり一実験・調査の実施 ※フィールドワーク有				
第12回	乳幼児の健康に関する研究の実際⑤ 一データの整理、分析一				
第13回	乳幼児の健康に関する研究の実際⑥ 一結果の考察一				
第14回	乳幼児の健康に関する研究の実際(質的研究)① 一参与観察一 ※フィールドワーク有				
第15回	乳幼児の健康に関する研究の実際(質的研究)② 一インタビュー調査一 ※フィールドワーク有				
備考	アクティブ・ラーニングにおけるディスカッション及びフィールドワークの要素を含む授業である。論文報告の際のディスカッションでは、主体的に発表・発言をすること。また、簡易実験・調査の実施などにも積極的に関わること。				

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
保育内容研究「言葉」	選	長田信彦	2	後期	演習
授業概要	乳幼児期の子どもの言葉の発達を促す援助について教材研究や模擬保育を通して追究し、指導支援する実践力を高める。				
到達目標	①乳幼児の発達に即した保育を構想し、指導力を高める。 ②指導案作成を通して保育を想定し、指導に生かす力を獲得する。 ③ICT機器を活用した指導案を作成し、保育実践力を身につける。				
評価方法	言葉に関する自己の学びのまとめと発表50%、提出物30%、議論への参加時の態度20%				
教科書等	大越和孝「改訂新版 『保育内容・言葉『言葉とふれあい、言葉で育つ』』」東洋館出版社、2018				
内 容					
第1回	ガイダンス 授業の計画・進め方・評価の仕方について				
第2回	領域「言葉」の意義の確認 言葉の機能について考える。				
第3回	領域「言葉」の意義の確認 言葉の機能について考える。				
第4回	領域「言葉」の意義の確認 言葉の機能について考える。				
第5回	幼児期の言葉の発達と援助のあり方をまとめる。				
第6回	幼児期の言葉の発達と援助のあり方をまとめる。				
第7回	乳児期の発語を促す保育者の具体的な事例を想定し、考察する。				
第8回	乳児期の発語を促す保育者の具体的な事例を想定し、考察する。				
第9回	幼児期（2歳～3歳）の言葉の発達を促す保育者の具体的な事例を想定し、考察する。				
第10回	幼児期（2歳～3歳）の言葉の発達を促す保育者の具体的な事例を想定し、考察する。				
第11回	幼児期（4歳～5歳）の言葉の発達を促す保育者の具体的な事例を想定し、考察する。				
第12回	幼児期（4歳～5歳）の言葉の発達を促す保育者の具体的な事例を想定し、考察する。				
第13回	言葉の発達に関する自己の学びをレポートにまとめる。				
第14回	言葉の発達に関する自己の学びをレポートにまとめる。				
第15回	自己の学び（研究レポート）の発表と振り返り。				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
保育内容研究「音楽表現」	選	山田麻美子	2	後期	演習
授業概要	就学前までの子どもの音楽表現活動指導において必要な知識・技術の習得をさらに深め、音楽の楽しさや新しい発見の探求が出来る指導法の工夫をする。				
到達目標	就学前までの子どもの音楽表現活動について子どもの成長発達段階を見据えながら領域「表現」のねらい及び内容を踏まえた音楽表現活動指導法を身に付ける。				
評価方法	就学前までの子どもの音楽表現活動指導法と保育者の援助について、模擬保育発表を行い評価する。				
教科書等	テキストは使用せず必要な資料を随時配布する。 参考資料：幼稚園教育要領(フレーベル館)、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(フレーベル館)、保育所保育指針(フレーベル館)				
内 容					
第1回	オリエンテーション 授業のねらい・評価等について				
第2回	領域「表現」のねらいと内容 乳幼児期の音楽表現活動について(音を聴いてみよう)				
第3回	音楽の三要素と音楽活動指導法1(手遊び) リズム・拍・拍子について 色々な拍子とリズム練習				
第4回	音楽の三要素と音楽表現活動指導法 2(楽器遊び) メロディ(旋律)の構成と調性 初見視唱・試奏練習				
第5回	音楽の三要素と音楽表現活動指導法 3 ハーモニー(和声)構成・コードネームについて				
第6回	音楽表現活動指導法 4(オノマトペについて) 言葉のもつリズムを考えてみよう				
第7回	音楽表現活動指導法 5(オノマトペ物語作成) 物語グループ発表				
第8回	音楽表現活動指導法 6 (トーンチャイム演奏) トーンチャイム合奏を楽しもう				
第9回	リトミックの基礎 リトミックの歴史と現状について学ぶ				
第10回	リトミック指導のための楽器即興演奏法 1 ピアノ即興演奏法1・和音進行に基づいて旋律を考える				
第11回	リトミック指導のための楽器即興演奏法 2 第10回で考えたピアノ即興演奏を演奏し表現を考える				
第12回	創造的音楽表現活動体験 1 ピアノの即興演奏に合わせて動きを考える				
第13回	創造的音楽表現活動体験 2 (演奏と動きの完成) 調性・強弱・和音感・リズム感等を考える				
第14回	模擬保育の意義と音楽表現活動指導案作成				
第15回	模擬保育実践・まとめとふりかえり				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
幼児体育理論と実践	選	角杉美恵子	2	後期	演習
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体力と健康について理解するとともに運動能力と体力の概念について理解する。 ・幼児期の運動指針の意義と運動能力の測定・評価について理解し、遊びとしての運動指導の方針について理解する。 ・運動指導における保育者の援助の在りかたを踏まえた運動遊びを企画する。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら運動に関心を持ち、幼児期の運動発達の特徴を理解するとともに子どもの健全な育ちに寄与することができる。 ・子どもの発達段階に応じた運動遊びを企画することができる。 ・運動能力を客観的な評価方法を学修し運動指導の問題点について指摘することができる。 ・運動遊びにおける保育者の適切な援助の在りかたについて考えることができる。 				
評価方法	課題レポート(知識・理解)50%、課題の発表(思考・判断・表現)30% 平常点(主体性・意欲・関心・態度)20%				
教科書等	幼稚園教育要領解説(文部科学省)、保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)、幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省)、杉原隆・川邊貴子編著「運動発達と運動遊びの指導」ミネルヴァ書房				
内 容					
第1回	オリエンテーション、運動場面における課題、運動能力の低下、体力の概念について				
第2回	幼児期の発達と運動能力・技能の発達について				
第3回	生きる力の育成及び子どもの健康と運動遊びについて				
第4回	運動発達と環境要因を構造的に把握するとともに、年間計画、週案、日案、指導案について				
第5回	安全教育に関する指導と健康安全に関する留意事項について				
第6回	幼児期の運動発達の特徴と幼児運動能力検査に基づく体力について				
第7回	幼児期の運動発達の特徴の応じた運動指導の在りかたについて				
第8回	運動に対する動機づけの発達、進んで運動する子どもを育てる保育と援助について				
第9回	発達を支える多様な活動について				
第10回	運動指導の在りかたや日常の保育への活かし方について				
第11回	遊びの重要性、遊びとしての運動指導の基本指針について				
第12回	運動遊びをとおして社会性や知的能力を育む様々な運動パターンについて				
第13回	自然環境を利用した様々な運動パターンについて				
第14回	様々な場面を想定した運動遊びの企画と指導案の作成及び模擬保育について				
第15回	企画した運動遊びの評価及び幼児体育の在りかたについてまとめる。				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
児童文化教材研究と実践	選	深澤瑞穂	2	後期	演習
授業概要	児童文化の学習を通して、授業で製作した作品を活用し、自己の表現技術や指導方法について習得する。実践としては、子どもの発達を視野に入れ、地域の幼稚園や保育園で演じる機会をもち交流を楽しむ。				
到達目標	①児童文化の歴史的な変遷及び子どもを取り巻く社会の変化について理解を深める。 ②子どもの遊びと文化について学び自身が選んだ教材を主体的に製作する。 ③子どもたちの前で演じることを通して、自ら省察を深める。				
評価方法	児童文化について専門知識を身に付けたか。 子どもの発達に応じた作品をいかに工夫して製作をしたか。 作品を活用し、自己の表現技術や指導方法について習得できたか。				
教科書等	必要に応じて講義用のテキストを作成する。作品製作にかかわる素材や材料の費用は個人負担。 参考図書：新版「児童文化」ななみ書房				
内 容					
第1回	ガイダンス・シラバス及び評価方法について ・児童文化の誕生と現在について				
第2回	児童文化財について ・様々な文化財から自分たちの製作したい教材を選ぶ。				
第3回	よい声の出し方 ・活舌の練習				
第4回	よい「語り」を目指そう ・脚本作成 ・音読と朗読の違い				
第5回	教材の脚本や下絵を作成 ・準備した素材や教材についての確認				
第6回	教材製作				
第7回	教材製作				
第8回	教材製作				
第9回	教材製作				
第10回	教材製作				
第11回	教材製作				
第12回	教材製作				
第13回	作品完成 見せ方・演じ方について				
第14回	リハーサル				
第15回	まとめ ・近隣園での実演を行う。				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
芸術と表現(ピアノ)	選	伊藤菜々子	2	前期	演習
授業概要	鍵盤楽器の歴史や様々な音楽ジャンルを探求しながら、ピアノの表現や基礎技術を身に付ける。また、実技発表を通して自身の演奏技術を向上させ、ピアノに親しみを持つことを目指す。				
到達目標	①鍵盤楽器の種類や音楽の歴史について理解し、音楽の多様性を理解する。 ②演奏曲目選定から実技発表までの準備過程を通じて、自身の演奏スキルと表現力を高める ③ピアノ演奏を通じて、自己表現し、音楽の楽しさを共有する。				
評価方法	・授業内での取り組み・実技演奏発表 ・プログラムノート・授業外での取り組み				
教科書等					
内 容					
第1回	ガイダンス (学習方法や効果的な練習方法の紹介)				
第2回	鍵盤楽器について (クラヴィコード・チェンバロ・オルガンの紹介)				
第3回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲①(バロック)				
第4回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲②(古典派)				
第5回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲③(ロマン派)				
第6回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲④(近現代)				
第7回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲⑤(映画音楽)				
第8回	実技演奏研究①(曲目の検討・選定)				
第9回	実技演奏研究②(曲目の知識と理解)				
第10回	実技演奏研究③(楽曲分析)				
第11回	実技演奏研究④(アンサンブル研究)				
第12回	実技演奏練習①(読譜)				
第13回	実技演奏練習②実技演奏練習②				
第14回	実技演奏練習③(リハーサル)				
第15回	実技演奏発表・まとめと振り返り				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
芸術と表現（声楽）	選	松田扶美子	2	前期	演習
授業概要	①声楽の基礎的な演奏技術と表現方法を学ぶことを通し、音楽性、音楽的実践力を身につける。 ②各自の進度に合わせた個人レッスン及びアンサンブル等の実践を行う。				
到達目標	①声楽の曲に応じた発声法・呼吸法・演奏技術を身に付けることができる。 ②曲の構成を知り、演奏表現につなげることができる。				
評価方法	実技試験（演奏の声楽さ、技術の達成度、音楽性）70%、 提出物10%、 日常の取り組み20%				
教科書等	新・声楽指導教本（教育芸術社）				
内 容					
第1回	ガイダンス・授業の内容と進め方				
第2回	声楽に必要な身体の仕組み・呼吸法・使い方について				
第3回	声楽に必要な呼吸法・発声について（話し声・歌声）				
第4回	様々なジャンルの曲の構成、背景を知る（ミュージカル・ジャズ・ポップス・童謡・演歌・子どもの歌等）				
第5回	課題曲の読譜①（曲の構成理解）				
第6回	課題曲の読譜②（様式の特徴を理解し、留意点を考察する）				
第7回	様々な演奏を聴くことにより、自分の表現の幅を広げる（実践）				
第8回	様々な演奏を聴くことにより、自分の演奏表現につなげる（応用）				
第9回	課題曲の仕上げ				
第10回	アンサンブルの基礎				
第11回	アンサンブルを楽しむ実践				
第12回	アンサンブルを楽しむ応用				
第13回	発表のための練習①				
第14回	発表のための練習②				
第15回	実技発表・まとめ・振り返り				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
芸術と表現（和楽器）	選	非常勤講師 坂田舞子	2	後期	演習
授業概要	日本における伝統的な和楽器（三味線・箏・小鼓・太鼓など）の技術・知識を習得する。日本人ならではの感性で森羅万象を表現した歌舞伎の黒御簾音楽を実際に演奏することによって、芸術表現の多角的な視野を広げ、豊かな感性を培い、自国の伝統芸能に対する理解を一層深める。				
到達目標	歌舞伎音楽（黒御簾音楽）の合奏ができる。各楽器の調整ができる。義務教育における邦楽授業への対応力を身につける。				
評価方法	実技による授業のため、出席により知識と技能を修得することが重要である。出席点30%、平常点（授業中の取り組みの様子・小レポート）30%、実技試験30%、特別加点10%に配分し、計100%で評価する。				
教科書等	必要に応じてプリントを配布する				
内 容					
第1回	ガイダンス 芸術と表現（和楽器）の概要説明				
第2回	歌舞伎の黒御簾音楽について				
第3回	三味線の調整の仕方・奏法				
第4回	三味線で黒御簾音楽を弾く① 「千鳥の合方」奏法の習得				
第5回	三味線で黒御簾音楽を弾く② 「千鳥の合方」奏法の習得				
第6回	小鼓、締太鼓、大太鼓の奏法				
第7回	囃子で黒御簾音楽を打つ①「千鳥の合方」小鼓の奏法の習得 「水音」「波音」大太鼓奏法の習得				
第8回	囃子で黒御簾音楽を打つ②「早笛」締太鼓の奏法習得				
第9回	箏の調整の仕方・奏法				
第10回	箏で黒御簾音楽を弾く①「八千代獅子」奏法の習得				
第11回	箏で黒御簾音楽を弾く②「八千代獅子」奏法の習得				
第12回	合奏演習①				
第13回	合奏演習②				
第14回	合奏演習③				
第15回	実技試験（小レポートを提出）				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
芸術と表現(アニメーション)	選	伊垣京子	2	後期	演習
授業概要	アニメーション作品を鑑賞・分析・再現をし、制作することにより映像表現の方法を探り、関心をたかめる。				
到達目標	コマ撮りアニメーション作品を制作し、発表をすることで表現力を養う。				
評価方法	課題提出80% 授業態度20%				
教科書等	各回ごとにプリント配布・資料を提示する。				
内 容					
第1回	ガイダンス				
第2回	アニメーションの鑑賞				
第3回	アニメーションの分析				
第4回	アニメーションの1シーンを再現(準備)				
第5回	アニメーションの1シーンを再現(撮影)				
第6回	コマ撮りアニメーション(絵コンテ作り)				
第7回	コマ撮りアニメーション(キャラクターデザイン)				
第8回	コマ撮りアニメーション(キャラクター制作)				
第9回	コマ撮りアニメーション(道具作り)				
第10回	コマ撮りアニメーション(背景作りと撮影)				
第11回	コマ撮りアニメーション(撮影)				
第12回	コマ撮りアニメーション(撮影から編集)				
第13回	コマ撮りアニメーション(編集と音入れ)				
第14回	コマ撮りアニメーション(作品の完成と発表準備)				
第15回	制作した作品の発表と講評				
備考	課題で必要な道具や材料は各自準備すること。 コマ撮りアニメーションを行う際にはStop Motion(無料)アプリを使用予定				

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
情報教育と社会	情報:必修 他:選択	伊庭 崇	2	前期	講義
授業概要	メディアが学校教育やそれを取り巻く社会にどのような影響をもたらしているのかを考察し、子どもとデジタルメディアの関わりを考える。				
到達目標	ICT、デジタルメディア、AI等と社会との関わりを学び、情報社会への対処の方法を考えることができる。				
評価方法	授業内での取り組み(50%)、課題(30%)、レポート(20%)				
教科書等	必要に応じて、担当教員より提示する。				
内 容					
第1回	イントロダクション 現代社会におけるICTの役割				
第2回	視聴覚メディアの歴史 コンピュータ活用の歴史				
第3回	先端技術の活用				
第4回	情報活用能力				
第5回	社会に必要なICT活用能力 ICT活用を支える資質と能力				
第6回	個別最適化に向けたICT活用				
第7回	対話・協働を支えるICT				
第8回	幼児におけるICT活用 障がい者におけるICT活用				
第9回	デジタルコンテンツの役割				
第10回	表現能力を高めるためのICT活用 課題作成1				
第11回	表現能力を高めるためのICT活用 課題作成2				
第12回	ICTによるリモートの可能性 【オンライン授業】				
第13回	情報モラル・情報セキュリティ 【オンライン授業】				
第14回	表現能力を高めるためのICT活用 課題作成3				
第15回	課題発表, まとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
情報科学実践演習A (動画作成)	情報:必修 他:選択	Reiji	2	前期	演習
授業概要	動画制作を通して、物事の見方や伝え方、表現方法などを考察する。受け手の視点で物事を考えられる多角的な思考を学ぶ。				
到達目標	制作する動画の目的、表現方法、与える影響や印象を学び、動画制作企画書を作成。実践で企画書に沿った動画の制作を行う。				
評価方法	授業態度、実践の態度、作成した動画内容で総合的に評価する。				
教科書等	動画編集ソフト				
内 容					
第1回	オリエンテーション 授業のねらいと評価について				
第2回	動画制作企画書の作成(1) 作成する動画の目的を考察する				
第3回	動画制作企画書の作成(2) 作成する動画の表現方法を考察する				
第4回	動画制作企画書の作成(3) 目的や表現方法を決め、企画書をまとめる				
第5回	動画制作企画書の作成(4) 視聴者の視点で自身の企画書进行评估する				
第6回	動画編集ソフト学習(1) 基礎知識、基本操作の学習				
第7回	動画編集ソフト学習(2) 編集操作の学習(テロップやカットなど)				
第8回	動画作成(1) 素材集め～整理、撮影準備～撮影				
第9回	動画作成(2) 撮影～撮影済素材の加工、作業目安の整理				
第10回	動画作成(3) 編集ソフトを使用し動画の制作①				
第11回	動画作成(4) 編集ソフトを使用し動画の制作②				
第12回	動画作成(5) 編集ソフトを使用し動画の制作③				
第13回	動画作成(6) 編集ソフトを使用し動画の制作④				
第14回	動画完成、まとめ 書き出し、 上映回、作品プレゼン、作品評価				
第15回	講義まとめ自己評価				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
情報科学実践演習B (ゲームプログラミング)	情報:必修 他:選択	Reiji	2	後期	演習
授業概要	Unity を使用して、ゲームプログラミングの基礎を学ぶ。 言語はC#を学び、使用する				
到達目標	①ゲームプログラミングの基礎を理解する。 ②C#言語の基礎を理解し、プログラムの作成ができる。 ③2Dゲームプログラミングに必要な処理を適切に構築できる。				
評価方法	文献や資料の講読、演習などの課題を課し、授業への取組や授業内の課題、提出物等で評価する。				
教科書等	必要に応じて、担当教員より提示する。				
内 容					
第1回	授業ガイダンス				
第2回	Unity について Unityの概要、基本操作の説明、小課題				
第3回	Unity について 共通課題作成				
第4回	Unity について 共通課題作成				
第5回	C# について C#の概要、変数についての説明、小課題				
第6回	C# について 関数についての説明、小課題				
第7回	C# について クラスについての説明、小課題				
第8回	Unity + C# 基本プログラムの小課題				
第9回	Unity + C# 基本プログラムの小課題				
第10回	Unity + C# 基本プログラムの小課題				
第11回	オリジナルゲーム作成 考案、設計				
第12回	オリジナルゲーム作成 プログラミング構築				
第13回	オリジナルゲーム作成 プログラミング構築				
第14回	オリジナルゲームの相互試演、及びゲームイベント企画				
第15回	まとめと授業の総括(含 確認テスト)				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
情報科学実践演習C (情報の発信と収集)	情報:必修 他:選択	佐野匡	2	後期	演習
授業概要	SNSやSEO等の活用について必要なリテラシーを習得し、適切な情報の発信や収集の在り方について学びます。				
到達目標	①SNSやSEO等を適切に活用することを通して、情報の発信や収集についての基礎的な知識を理解することができる。②利用内容に合わせた応用力を身に付け、目的にあった活用ができる。③日常の活動において、身に付けた技術を活用しようとする。				
評価方法	課題への取り組み状況・提出状況80%、授業内試験20%、				
教科書等	指定しない				
内 容					
第1回	オリエンテーション 授業内容-目的-計画-評価方法の確認等				
第2回	SNSの現状と課題 SNSの現状について、自分の周りの状況と比較				
第3回	遠隔会議システムの活用 遠隔会議システム、メタバースを体験し、活用の可能性について考察				
第4回	SNSの特徴と活用法 SNSの種類や特徴を知るとともに、現在の運用状況を調査				
第5回	SNS活用の実際① SNS活用のための企画・設計と、情報リテラシーについての確認				
第6回	SNS活用の実際② SNSにより発信をするための準備				
第7回	SNS活用の実際③ SNSの運用を実際に行う				
第8回	SNS活用の実際④ 企画・設計にもとづいた効果の検証				
第9回	SNS活用の実際⑤ 検証した結果に合わせた改善				
第10回	SEOの基礎検索 エンジン最適化 (SEO) の理解				
第11回	SEOの実際① SEO対策の実践をする。				
第12回	SEOの実際② SEO対策を行った結果の検証と改善				
第13回	情報の発信と収集① 各自でテーマを決め、そのテーマに沿った実践をする。				
第14回	情報の発信と収集② 各自がテーマを決め、そのテーマに沿った実践をする。				
第15回	まとめ テーマに沿って行った実践についてレポートするとともに、授業内試験を行う。				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態	
修了研究	必	教授 池口洋一郎 教授 深澤瑞穂 准教授 山本剛	4	通年	演習	
授業概要	受講学生は、教育学の基礎理論に関連してこれまでの授業、実習等を通して生じた興味・関心を基に、各自の研究テーマを設定し、担当教員の指導のもと研究に取り組む。研究の経過については教員からの指導と学生同士の質疑応答を通して随時省察を行う。研究を通しての学修成果については、中間発表会、研究成果発表会を得て、論文として提出する。 【クラス分け方式】					
到達目標	①教育学または子ども教育学の方法に基き調査研究を行った上で、客観的に結果を把握し、論考することができる。 ②自らの研究成果を他者に伝えるためのプレゼンテーション能力を身につける。 ③調査・研究の実践の中で教育学・子ども教育学に基いた子ども理解の方法を身につける。					
評価方法	中間発表・修了研究の論文内容及び口頭発表					
教科書等	学生のテーマに沿って適宜に資料を配布					
内 容						
第 1 回	ガイダンス 専攻科担当教員がそれぞれ専門分野についてのガイダンスを開いて、学生のテーマを決定し、翌週までに暫定的にゼミ教員を決定する。					
第 2 回	研究テーマについての検討 ゼミごとのセミナー					
第 3～4 回	先行研究の調査（1） 各自がテーマと関わる研究文献の検討					
第 5～6 回	先行研究の調査（2） 検討結果を発表					
第 7～8 回	テーマ設定 テーマと内容に関する構成図作成（1）					
第 9 回	テーマと内容に関する構成図作成（2）					
第 10～11 回	序論の作成 研究の動機と目的、用語の定義					
第 12～14 回	本論の作成 先行研究・研究対象の分析など					
第 15 回	中間発表					
第 16～20 回	本論の作成					
第 21～24 回	結論の作成 結論の導き方・引用参考文献リストの作り方					
第 25～27 回	本論まとめ作成					
第 28～30 回	口頭発表					
備考						

有明教育芸術短期大学 専攻科 シラバス目次

情報教育 コース

区分	形態	担当者	授業科目	単位数	開設学期	必修・選択	頁		
専門科目	教育心理学に関する科目	演習	石井 特別活動研究	2	前	4科目 8単位 以上選択	1		
		演習	伊庭 教育技術とICT	2	前		2		
		講義	池口 生徒指導論	2	前		3		
		講義	山本 教育の歴史と思想	2	後		4		
		講義	山本 現代教職論	2	後		5		
		講義	山本 学校経営論	2	後		6		
		講義	池口 子どもの発達過程と障害	2	後		7		
		実習	池口 情報教育インターンシップ	5	通年	必修	10		
	教科教育に関する科目	演習	長田 国語科教材研究と授業づくり	2	前	3科目 6単位 以上選択	11		
		演習	山本 社会科教材研究と授業づくり	2	前		12		
		演習	角杉 体育科教材研究と授業づくり	2	前		13		
		演習	新庄 外国語教材研究と授業づくり	2	前		14		
		演習	池口 算数科教材研究と授業づくり	2	後		15		
		演習	松田 音楽科教材研究と授業づくり	2	後		16		
		演習	有福 図画工作科教材研究と授業づくり	2	後		17		
		演習	石井 特別の教科道徳教材研究と授業づくり	2	後		18		
		幼児教育・保育に関する科目	演習	赤坂 保育内容研究「人間関係」	2		前	3科目 6単位 以上選択	19
			演習	信太 保育内容研究「環境」	2		前		20
	演習		有福 保育内容研究「造形表現」	2	前	21			
	演習		山本 幼児教育・保育施設運営論	2	前	22			
	演習		角杉 保育内容研究「健康」	2	後	23			
	演習		長田 保育内容研究「言葉」	2	後	24			
	演習		山田 保育内容研究「音楽表現」	2	後	25			
	演習		角杉 幼児体育理論と実践	2	後	26			
	演習		深澤 児童文化教材研究と実践	2	後	27			
	関連科目	芸術に関する科目	演習	伊藤 芸術と表現（ピアノ）	2	前	1科目 2単位 以上選択	28	
			演習	松田 芸術と表現（声楽）	2	前		29	
演習			坂田 芸術と表現（和楽器）	2	後	30			
演習			伊垣 芸術と表現（アニメーション）	2	後	31			
情報科学に関する科目		講義	伊庭 情報教育と社会	2	前	4科目 8単位 必修	32		
		演習	Reiji 情報科学実践演習A（動画作成）	2	前		33		
		演習	Reiji 情報科学実践演習B（ゲームプログラミング）	2	後		34		
		演習	佐野 情報科学実践演習C（情報の発信と収集）	2	後		35		
専攻に係る単位以外の科目	論文	専任3名	修了研究	4	通年	必修	36		

33単位

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
特別活動研究	選	石井友行	2	前期	講義 演習
授業概要	「特別活動」に関して小学校学習指導要領に示された内容を理解した上で、講義やインターンシップ、模擬授業実践等を通して指導力の向上を図る。				
到達目標	①「特別活動」のねらいと内容への理解を深める。 ②「特別活動」の特質にあった指導法を身につける。				
評価方法	①「特別活動」のねらいと内容への理解を深める。 ②「特別活動」の特質にあった指導法を身につける。				
教科書等	小学校学習指導要領解説 特別活動編				
内 容					
第1回	・オリエンテーション ・学習指導要領「特別活動」の目標、内容構成			講義	
第2回	・特別活動の意義（討論）			講義 演習	
第3回	・特別活動の3視点と社会における汎用性			講義 演習	
第4回	・特別活動指導の基本（指導原理）			講義 演習	
第5回	・各活動の目標及び内容（学級活動）			講義 演習	
第6回	・各活動の目標及び内容（児童会活動） ・研究実践校の研究内容について			講義 演習	
第7回	・各活動の目標及び内容（クラブ活動） ・研究実践校の検証授業のあり方について			講義 演習	
第8回	・授業の実際 研究実践校の授業見学			授業見学	
第9回	・授業の実際 研究実践校の協議会への参加			演習	
第10回	・学級活動（話し合い活動） ・研究実践校の授業見学から学んだこと			講義 演習	
第11回	・各活動の目標及び内容「学校行事」 ・「特別活動」における評価			講義 演習	
第12回	・検証授業の視点について			講義 演習	
第13回	・授業の実際 研究実践校の授業見学			授業見学	
第14回	・授業の実際 研究実践校の協議会への参加			演習	
第15回	・学修のまとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
教育技術とICT	選	伊庭 崇	2	前期	演習
授業概要	情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法について学び、実践的な指導力を育成することを目的とする。ICTを効果的に活用した学習指導や校務の推進について詳しく学ぶ。また、児童に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法の理解を深める。				
到達目標	①情報通信技術の活用の意義と理論を理解している。 ②情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について詳しく理解している。 ③児童等に情報活用能力(情報モラルを含)を育成するための基礎的な指導法を身に付けている。				
評価方法	文献や資料の講読、演習などの課題を課し、授業への取組や授業内の課題、提出物等で評価する。				
教科書等	必要に応じて、担当教員より提示する。				
内 容					
第1回	授業ガイダンス 情報通信技術の活用の意義と在り方				
第2回	情報活用能力を育成するための指導法				
第3回	各教科等横断的に育成する情報活用能力 理論				
第4回	各教科等横断的に育成する情報活用能力 授業考案				
第5回	各教科等横断的に育成する情報活用能力 グループ発表				
第6回	ICTを効果的に活用した授業 指導事例, 授業考案				
第7回	ICTを効果的に活用した授業 発表, 指導案作成				
第8回	表現能力を高めるためのICT活用				
第9回	ICTを活用した校務の推進 理論				
第10回	ICTを活用した校務の推進 課題作成1 文書作成や表計算, プレゼン等				
第11回	ICTを活用した校務の推進 課題作成2 配信やアンケート機能の扱い				
第12回	オンライン教育の意義と使用法 【オンライン授業】				
第13回	情報モラル・情報セキュリティ 【オンライン授業】				
第14回	情報モラル 事例課題解決考案				
第15回	まとめと授業の総括(含 確認テスト)				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
生徒指導論	選	池口洋一郎	2	前期	講義
授業概要	文部科学省『生徒指導提要』（最新版）に基づき、ディスカッションや体験を通して、いじめ、不登校や暴力行為、キャリア教育等の教育課題を取り上げ、実践的な指導法について深める。				
到達目標	小学校教諭としての生徒指導の基本的な考え方を身に付け、実際の事例等を通して、課題への対処法を考えていく。				
評価方法	リフレクションシート、講義への参加75% 最終レポート25%				
教科書等	文部科学省『生徒指導提要』				
内 容					
第1回	ガイダンス 生徒指導の基本的な進め方				
第2回	生徒指導の意義と構造				
第3回	個別の課題に対する生徒指導① いじめ				
第4回	個別の課題に対する生徒指導② 不登校				
第5回	個別の課題に対する生徒指導③ 少年非行				
第6回	ネット社会における情報教育				
第7回	キャリア教育（5つの視点）				
第8回	キャリア教育（進路指導）の理論				
第9回	地域・社会と連携したキャリア教育				
第10回	関係機関との連携				
第11回	教育相談で活用できる様々な手法				
第12回	カウンセリングの実際				
第13回	教育相談的手法に基づく対応① ソーシャルスキルトレーニング等				
第14回	教育相談的手法に基づく対応② 保護者・地域等への対応				
第15回	まとめ(生徒指導の意義と課題)				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
教育の歴史と思想	選	山本剛	2	後期	講義
授業概要	日本及び西洋における教育の理念や思想の歴史の変遷を踏まえて、主要な教育思想や教育観を学ぶ。また、日本及び西洋の教育・学校の歴史的展開に関する基本的な事項を学ぶ。				
到達目標	教育の歴史に関する基礎的知識と多様な教育の理念を理解し、教育及び学校の時代的変遷を捉える。				
評価方法	試験70%（期末試験を課す） 講義のリアクションペーパー30%				
教科書等	授業中に適宜指示する。				
内 容					
第1回	ガイダンス 本講義の目的及び概要について				
第2回	教育に関する歴史と思想(1) 教育の起源と学校の成立				
第3回	教育に関する歴史と思想(2) 近代以前の教育思想(ソクラテス・コメニウスの思想)				
第4回	教育に関する歴史と思想(3) 近代の教育思想(ルソー・ヘンリッヒの思想)				
第5回	教育に関する歴史と思想(4) 家庭や子どもに関わる教育(フレベール・アリスの思想)				
第6回	教育に関する歴史と思想(5) 学校や学習に関わる教育(デューイの思想)				
第7回	教育に関する歴史と思想(6) 学校に対する思想(ブルデュエ・パスロン・イリッチの思想)				
第8回	近代教育制度の確立(1) 西洋における近代学校教育制度の成立と展開				
第9回	近代教育制度の確立(2) 近代市民社会と公教育の歴史				
第10回	日本における近代学校教育の成立 明治・大正・昭和戦前期				
第11回	日本における学校教育の再出発 戦後教育とその展開				
第12回	教育基本法・学校教育法・学校段階別の教育目的				
第13回	現代社会における教育の課題				
第14回	海外の教育の状況				
第15回	まとめ 今後の教育の行方				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
現代教職論	選	山本剛	2	後期	講義
授業概要	教員になるためには、どのような資質能力が必要なのかを学ぶ。				
到達目標	教員として必要な資質能力を確実に身につけるとともに、教職の専門性を理解する。				
評価方法	最終レポート（70%） 講義のリアクションペーパー（30%）				
教科書等	授業中に適宜指示する。				
内 容					
第1回	ガイダンス 教職をめぐる今日的課題を探る				
第2回	優れた教員とはなにか				
第3回	教職およびその資格の歴史と現在① 戦前の師範学校制度				
第4回	教職およびその資格の歴史と現在② 開放性教員養成制度				
第5回	教職をめぐる法制				
第6回	教員に求められる役割と資質・能力① 近年の子どもの実態の把握				
第7回	教員に求められる役割と資質・能力② 学習指導				
第8回	教員に求められる役割と資質・能力③ 生活指導				
第9回	教師として人間としての成長を考える パネルディスカッション				
第10回	教師として人間としての成長を考える 全体討論				
第11回	教師の職務① 各自の決意の表明				
第12回	教師の職務② 各自の決意の表明				
第13回	教師の職務③ 各自の決意の表明				
第14回	教師の職務④ 各自の決意の表明				
第15回	全体の総括				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
学校経営論	選	山本剛	2	後期	講義
授業概要	「学校」という近代装置を理解することを主な目的として、学校経営の歴史と現状について認識を深める。また、学校経営にかかわる教育・社会の諸現象を読み解き、教育改革と学校経営への問題意識を明確にする。				
到達目標	学校経営をめぐってとくに近年大きな影響力を持ってきている「新自由主義の教育改革」に焦点を合わせ、学校経営のあり方について考察を深める。				
評価方法	最終レポート（50%）、研究発表（50%）				
教科書等	市川昭午『教育の私事化と公教育の解体』教育開発研究所、2006年、菊地栄治『他人事≡自分事』東信堂、2020年。				
内 容					
第1回	イントロダクション 「公共性」をなぜ問う必要があるか				
第2回	学校の歴史—日本				
第3回	学校の歴史—西欧				
第4回	学校制度に関する法制度				
第5回	学校経営の基本的な理解				
第6回	学校経営の成り立ち				
第7回	学校経営をめぐる諸問題				
第8回	学級経営と教育実践				
第9回	実践事例に学ぶ① 学級崩壊・いじめ				
第10回	実践事例に学ぶ② 発達障害児童の支援				
第11回	これからの学校像について				
第12回	各自のテーマ発表と議論①				
第13回	各自のテーマ発表と議論②				
第14回	各自のテーマ発表と議論③				
第15回	まとめ 授業の総括議論				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
子どもの発達過程と障害	選	池口洋一郎	2	後期	演習
授業概要	DSMやICDにおける障がいの定義に基づき、ディスカッションや体験を通して、障がいや発達障害の理解を深め、特別支援教育における現状や課題に基づいた実践的な指導法について深める。				
到達目標	小学校教諭として、特別支援教育に関する役割や基本的な考え方を身に付け、実際の事例研究を通して、課題への対処法を学ぶ。				
評価方法	リフレクションシートの記載、講義への参加75% 最終レポート25%				
教科書等	指定なし				
内 容					
第1回	ガイダンス 発達の理論① 幼児・幼児期までの発達過程				
第2回	発達の理論② 児童期・青年期の発達過程				
第3回	障害の概念と診断基準 障害の診断基準 (DSM, ICD等)				
第4回	学習障害 (SLD) の認知・行動的特性				
第5回	自閉症スペクトラム (ASD) の分類 自閉症児の認知・行動的特性				
第6回	アスペルガー症候群について				
第7回	注意欠如・他動症 (ADHD) 児の 認知・行動的特性				
第8回	発達性協調運動障害DCDについて				
第9回	ギフテッド・2Eについて				
第10回	緘黙、吃音への支援				
第11回	知的障害児の認知・行動的特性				
第12回	発達障害に関する課題事例検討				
第13回	発達に関するアセスメント 1 知能検査 (WISC) の読み取り方				
第14回	発達に関するアセスメント 2 知能検査を基にした助言の在り方				
第15回	発達過程とさまざまな障害に関する理解のまとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態	
情報教育インターンシップ	必	池口洋一郎	5	通年	実習	
授業概要	専攻科における教育技術とICT（演習）を土台とし、インターンシップ実践校において、通年で情報教育に関する指導体験を実施する。					
到達目標	情報教育に関して最新の情報・技術に関する指導方法を身に付ける。					
評価方法	実習報告書、評価書の内容、中間発表会、最終発表会を中心として成績評価を行う。					
教科書等	実習校において資料配付を行う。					
内 容						
第1回	インターンシップの目的、意義、内容の理解（前期）					
第2回	インターンシップに向けての生徒理解と実践方法①					
第3～17回	インターンシップ実施校における実習① <50分×2×15回>					
第18回	前期の振り返りとまとめ					
第19回	インターンシップの成果の課題の中間発表会					
第20回	インターンシップの目的、意義、内容の理解（後期）					
第21回	インターンシップでの生徒理解と実践方法②					
第22～36回	インターンシップ実施校における実習② <50分×2×15回>					
第37回	後期の振り返りとまとめ					
第38回	インターンシップの成果の最終発表会					
備考						

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
国語科教材研究と授業づくり	選	長田信彦	2	前期	演習
授業概要	小学校国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について指導細案の作成を通して追究し、実践的な指導力を身につける。				
到達目標	①小学校国語科教育の目標と内容を理解し、指導力を身につける。 ②現場で実践できる国語科教育の指導方法を身につける。 ③各領域の学習指導細案を作成し、授業構想力を身につける。				
評価方法	国語科教育に関する自己の学びのまとめと発表50%、提出物30%、議論への参加時の態度20%				
教科書等	『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版、最新版/森田信義他				
内 容					
第1回	ガイダンス 授業の計画・進め方・評価の仕方について				
第2回	小学校下学年の文学的作品を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第3回	小学校下学年の文学的作品を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第4回	作成した指導細案を使って模擬授業を行い、考察する。				
第5回	小学校下学年の説明的文章を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第6回	小学校下学年の説明的文章を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第7回	作成した指導細案を使って模擬授業を行い、考察する。				
第8回	小学校高学年の文学的作品を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第9回	小学校高学年の文学的作品を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第10回	作成した指導細案を使って模擬授業を行い、考察する。				
第11回	小学校高学年の説明的文章を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第12回	小学校高学年の説明的文章を取り上げ、学習指導細案を作成する。				
第13回	作成した指導細案を使って模擬授業を行い、考察する。				
第14回	小学校国語科教育に関する自己の学びをまとめる。				
第15回	自己の学び(研究レポート)の発表と振り返り。				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
社会科教材研究と授業づくり	選	山本剛	2	前期	演習
授業概要	小学校社会科の目標と内容及び具体的な授業設計を理解し、模擬的授業を実施する。				
到達目標	小学校社会科の目標と内容に関する全体構造及び指導上の留意点をふまえた学習指導と評価の考え方を理解する。				
評価方法	最終レポート50%、平常点評価:50% (小課題と小レポート発表・学習指導案の作成・コメントなどによる)				
教科書等	文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年3月告示)』2017年。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』2017年。				
内 容					
第1回	学習指導要領等の改訂と社会科の歴史				
第2回	現行学習指導要領の構成と検討				
第3回	第3学年社会科学習と学習指導要領の検討				
第4回	第4学年社会科学習と学習指導要領の検討				
第5回	第5学年社会科学習と学習指導要領の検討				
第6回	第6学年社会科学習と学習指導要領の検討				
第7回	社会科教育の背景となる学問領域と教材研究(1) 社会科の基本方針				
第8回	社会科教育の背景となる学問領域と教材研究(2) 地理歴史の基本方針				
第9回	社会科教育の背景となる学問領域と教材研究(3) 公民科の基本方針				
第10回	社会科授業の構想(1) 第3学年・第4学年の構想				
第11回	社会科授業の構想(2) 第5学年の構想				
第12回	社会科授業の構想(3) 第6学年構想				
第13回	模擬授業(1)				
第14回	模擬授業(2)				
第15回	まとめ、各自のレポートの口頭発表				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
体育科教材研究と授業づくり	選	角杉美恵子	2	前期	演習
授業概要	『小学校学習指導要領 体育』の各領域の内容構成を理解し、授業構成に向けての基礎的・基本的知識を理解し教材を研究する。各領域の授業を構想し、演習（体育実技、模擬授業）を通して、教員に求められている実践的指導力の基礎を培うとともに、集団的活動を通して仲間と協力する態度や思考力、コミュニケーション能力を高める。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域の内容構成や指導に必要な安全管理（リスクマネジメント）について説明できる。 ・研究協議等に積極的に参加し、相互評価することができる。 ・指導者（教員）としての資質向上を図るための実践力を修得するとともに、実技指導に必要な模範を示すことができる。 				
評価方法	課題レポート(知識・理解)50%、課題の発表(思考・判断・表現)30%、平常点（主体性、意欲・関心・態度）20%				
教科書等	文部科学省『小学校学習指導要領解説「体育編」』 東山書房 文部科学省『小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック』 大修館書店『初等体育授業づくり入門』 岩田靖, 吉野聡, 日野克博, 近藤智靖編著				
内 容					
第1回	オリエンテーション ・授業の進め方 ・運動領域の構成と安全管理等について・授業指導案の作成			ICTの活用と指導法の工夫 演習 模擬授業 運動が苦手な子への指導の工夫 リスクマネジメント KJ法 ロールプレイング	
第2回	体づくり運動系領域・「準備運動、整理運動」「整列・集団行動」「ラジオ体操」についての理解と実技				
第3回	・「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動」「体の動きを高める運動」の理解と実技・10分間の準備運動について考えをまとめる。				
第4回	陸上運動系領域・「短距離走・リレー、ハードル走」「走り幅跳び」「走り高跳び」の理解と実技				
第5回	陸上運動系領域・「短距離走・リレー、ハードル走」「走り幅跳び」「走り高跳び」の授業構想と実技				
第6回	表現運動系領域・「表現」「リズムダンス」「フォークダンス」の特性の理解及び指導内容と実技				
第7回	表現運動系領域・「表現」「リズムダンス」「フォークダンス」の授業構想と演習				
第8回	器械運動系領域・「マット運動」「跳び箱運動」「鉄棒運動」の理解と実技、グループ練習の活用				
第9回	器械運動系領域・「マット運動」「跳び箱運動」「鉄棒運動」の理解と実技、下位の運動の工夫				
第10回	ボール運動系領域・「ボールゲーム、鬼遊び」「ゴール型、ネット型、べ-スボール型」の理解と実技				
第11回	ボール運動系領域・「ボールゲーム、鬼遊び」「ゴール型、ネット型、べ-スボール型」の授業構想と演習				
第12回	水泳運動系領域 水泳運動系の特性の理解、学習指導の工夫 安全管理・危機管理についての理解				
第13回	各運動領域のまとめと「よい体育授業」についての探究				
第14回	模擬授業の実践を通して学んだことの整理と研究 PDCAマネジメントサイクルについて				
第15回	日頃の実践を振り返り、目指す教師像や目指す児童像を構築し発表する。				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
外国語教材研究と授業づくり	選	新庄恵子	2	前期	演習
授業概要	小学校における外国語活動・外国語に関して、音声指導としての重要な歌やフォニックスを取り上げ、その理論と実践を学ぶ。児童が楽しみながら英語を学ぶことができる指導方法や活動内容を検討し、教材研究及び授業づくりを行う。				
到達目標	①小学校外国語教育の指導方法の基礎知識を習得し、他者に説明することができる。 ②英語教育の理論に基づき、授業の指導計画を作成し実践することができる。 ③効果的な指導方法を研究し実践することができる。				
評価方法	授業内での取組（模擬授業、発表等）：40%、課題の提出状況：30%、 期末レポート：30%				
教科書等	教科書：授業内で適宜、資料配布及び指示する。 参考書：文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編」平成29年7月				
内 容					
第1回	オリエンテーション ・授業のねらいと課題設定、評価等について				
第2回	学習指導要領の理解① ・外国語活動・外国語の目的と目標				
第3回	学習指導要領の理解② ・外国語活動・外国語の意義				
第4回	教材の構成と内容				
第5回	指導目標、年間指導計画について				
第6回	言語材料と4技能の指導				
第7回	教材研究①・題材選定や教材研究方法について ・自作教材の作成				
第8回	教材研究②・ICTを活用した教材について ・児童の興味関心を高める教材作成				
第9回	教材研究③ ・自作の教材について発表				
第10回	学習指導案作成①				
第11回	学習指導案作成②				
第12回	第12～第14回 模擬授業①②③ ・学習指導案に即した模擬授業、講評				
第13回	第12～第14回 模擬授業①②③ ・学習指導案に即した模擬授業、講評				
第14回	第12～第14回 模擬授業①②③ ・学習指導案に即した模擬授業、講評				
第15回	英語教育に関するディスカッション、まとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
算数科教材研究と授業づくり	選	池口洋一郎	2	後期	演習
授業概要	小学校算数科における5つの領域に関連させ、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通すことにより、数学的に考える資質・能力を育成する指導法について深める。				
到達目標	教科書の単元、授業の展開についてグループワークを通して内容を深め、授業計画を立案し模擬授業を実施し、実践力を高める。				
評価方法	リフレクションシート講義への参加50% 指導案作成・模擬授業50%				
教科書等	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編 文部科学省				
内 容					
第1回	ガイダンス 講義のねらいと課題設定、評価について				
第2回	小学生の知的発達の特徴				
第3回	小学校学習指導要領（算数科）の研究① 整数における数学的活動と資質・能力				
第4回	小学校学習指導要領（算数科）の研究② 平面・立体図形における数学的活動と資質・能力				
第5回	小学校学習指導要領（算数科）の研究③ 変化と関係における数学的活動と資質・能力				
第6回	算数的教材と指導内容の研究① 計算の仕方における数学的活動と資質・能力				
第7回	算数的教材と指導内容の研究② 図形の計量における数学的活動と資質・能力				
第8回	算数的教材と指導内容の研究③ 測定における数学的活動と資質・能力				
第9回	授業参観による授業研究				
第10回	授業参観に基づく模擬授業の研究				
第11回	模擬授業に向けての指導案検討①				
第12回	模擬授業に向けての指導案検討②				
第13回	模擬授業①				
第14回	模擬授業②				
第15回	研究のまとめと発表				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
音楽科教材研究と授業づくり	選	松田扶美子	2	後期	演習
授業概要	①児童の音楽表現の実態を把握し、支援の手立て、授業づくりの実践を行う。 ②教材研究と指導体験を通して小学校音楽科に必要な知識を身につける。				
到達目標	①小学校における音楽科の授業づくりに関する基本的な知識・内容及び指導技術の修得。 ②グループワークに主体的に参加し、ほかの学生の演奏及び指導法の工夫や良さを評価することができる。				
評価方法	参加・取り組み40%、発表50%、レポート課題10%				
教科書等	小学校音楽科教育法				
内 容					
第1回	ガイダンス・授業の内容と進め方				
第2回	音楽を形作っている要素について (指揮など実技指導の基礎)				
第3回	歌唱の教材分析と指導法の検討				
第4回	歌唱の模擬授業について				
第5回	音楽科の授業づくり・学級づくり				
第6回	器楽の指導法(リコーダー)				
第7回	器楽の指導法(鍵盤ハーモニカ)				
第8回	器楽教材の分析と指導法の検討				
第9回	鑑賞の指導法①(聴くポイントの焦点化)				
第10回	鑑賞の指導法①(聴くポイントの焦点化)				
第11回	日本の音楽に関わる指導法 (わらべうたを中心に)				
第12回	音楽づくりの教材研究と指導法の検討				
第13回	指導案作成				
第14回	指導案の作成のまとめ・実技発表				
第15回	まとめ・実技発表と振り返り				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
図画工作科教材研究と授業づくり	選	教授 有福一昭	2	後期	演習
授業概要	さまざまな材料・素材を特徴を活かし、造形技法を探究し、授業づくりに取り入れられるように生かせるようになる。				
到達目標	紙、木、土、布、金属、プラスチックなどさまざまな素材の特性を理解し、個々の造形表現に活かし、授業に取り入れるようになる。				
評価方法	作品50%、レポート等の提出物、発表40%、授業態度10%				
教科書等	なし、授業内で適宜、資料配布する。				
内 容					
第1回	オリエンテーション ・授業のねらいと内容、受講の留意点				
第2回	素材研究-紙1 ・紙を使った造形材料としての紙の表現				
第3回	素材研究-紙2 ・和紙、洋紙等を使った造形材料としての紙の表現				
第4回	素材研究-木1 ・木を使った造形活動1(製材を使った作品)				
第5回	素材研究-木2 ・木を使った造形活動2(自然素材を活用した作品)				
第6回	素材研究-土1 ・土の可塑性を生かした造形活動1(可塑性の表現)				
第7回	素材研究-土2 ・土の可塑性を生かした造形活動2(その他の様態)				
第8回	技法探究-版画1 ・版画技法体験(紙、木版等) 構想・スケッチ				
第9回	技法探究-版画2 ・版画技法体験(紙、木版等) 制作(転写・彫り)				
第10回	技法探究-版画3 ・版画技法体験(紙、木版等) 制作(彫り)				
第11回	技法探究-版画4 ・版画技法体験(紙、木版等) 制作(摺り)				
第12回	鑑賞 ・鑑賞ボード等を使った鑑賞法(ICT機器の活用含)				
第13回	模擬授業準備1 ・模擬授業のための見本作り(材料設定等の準備)				
第14回	模擬授業準備2 ・模擬授業のための見本作り(制作、記録)				
第15回	・模擬授業発表(ICT機器の活用含)				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
特別の教科道徳 教材研究と授業づくり	選択	石井友行	2	1	講義 演習
授業概要	「特別の教科道徳」、「道徳教育」に関して小学校学習指導要領に示された内容を理解した上で、講義やインターンシップ、模擬授業実践等を通して指導力の向上を図る。				
到達目標	①「特別の教科道徳」のねらいと内容への理解を深める。 ②「特別の教科道徳」の特質にあった指導法を身につける。				
評価方法	・インターンシップ等への主体的な取り組み ・学修内容のプレゼンテーション ・模擬授業実践の内容 ・期末レポート				
教科書等	小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編				
内 容					
第1回	道徳授業見学 有明小学校道徳授業地区公開講座	見学			
第2回	オリエンテーション 学習指導要領「特別の教科 道徳」の目標、内容項目	講義 演習			
第3回	道徳教育と道徳科	講義 演習			
第4回	道徳教育に求められていること（討論）	講義 演習			
第5回	内容「A 主として自分自身に関する事」	講義 演習			
第6回	内容「B 主として人との関わりに関する事」	講義 演習			
第7回	内容「C 主として集団や社会との関わりに関する事」	講義 演習			
第8回	内容「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事」	講義 演習			
第9回	指導計画の作成 全体計画、指導案	講義 演習			
第10回	授業の実際：模擬授業	演習			
第11回	授業の実際：模擬授業	演習			
第12回	授業の実際：模擬授業	演習			
第13回	授業の振り返り（PDCAサイクル）	講義 演習			
第14回	「特別の教科道徳」における評価	講義 演習			
第15回	学修のまとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
保育内容研究「人間関係」	選	赤坂澄香	2	前期	演習
授業概要	各発達段階における子どもの人間関係の育ちについて詳しく学び、子どもの人と関わる力を育む保育についての知見を広げる。事例検討や教材研究・作成を通して、子どもの人間関係の発達を踏まえた支援や援助を考え、子どもに適した保育者の対応を学ぶ。さらに、事例を基にした討論等を通して、遊びや生活の中での人との関わりやその発達を支える保育者の役割について考える。				
到達目標	①子どもの人間関係の発達を踏まえた支援や援助を考え、子どもに適した保育者の対応を判断できる。 ②子どもたちが豊かな人間関係を築いていくために必要な力について考え、教材作成や指導計画を立てることができる。				
評価方法	レポート40%、授業内課題60%				
教科書等	指定しない。授業時に資料を配布する。				
内 容					
第1回	オリエンテーション 現代の保育の課題と領域「人間関係」				
第2回	領域「人間関係」のねらいと内容・指導上の留意点				
第3回	3歳児の人間関係の育ちと保育者の役割 (事例検討)				
第4回	4歳児の人間関係の育ちと保育者の役割 (事例検討)				
第5回	5歳児の人間関係の育ちと保育者の役割 (事例検討)				
第6回	子どもと保育者の関わり (エピソード記述・事例検討)				
第7回	遊びの中の人との関わり (教材研究・事例検討)				
第8回	生活を通して育つ人との関わり (エピソード記述・事例検討)				
第9回	個と集団の育ち (エピソード記述・事例検討)				
第10回	教材研究と指導計画①子どもたちが豊かな人間関係を築いていくために必要な力について考え、テーマを設定する。				
第11回	教材研究と指導計画② テーマに基づいた教材研究				
第12回	教材研究と指導計画③ テーマに基づいた教材研究				
第13回	教材研究と指導計画④ 教材作成と保育の構想				
第14回	教材研究と指導計画⑤ 保育の実践と振り返り				
第15回	領域「人間関係」のまとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
保育内容研究「環境」	選	信太朋子	2	前期	演習
授業概要	環境通して行う教育・保育、遊びを通しての総合的な指導について理解する。				
到達目標	子どもを取り巻く現状及び発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想することができる。				
評価方法	レポート・活動計画案・指導計画・実習園の環境点検・改善 演習態度				
教科書等	光生館 保育内容 環境 萌文書林 保育内容「環境」あなたならどうしますか？				
内 容					
第1回	授業ガイダンス 本授業の概要 年間の見通し				
第2回	子どもの発達と環境Ⅰ 乳児の育ちと環境				
第3回	子どもの発達と環境Ⅱ 幼児の育ちと環境				
第4回	子どもと園の環境 園庭・保育室等の環境				
第5回	教材の工夫と環境構成 好奇心・探求心を育む教材				
第6回	園外の環境 子どもを取り巻く環境の影響				
第7回	子どもを育む学級 子どもを育む学級集団				
第8回	自然との関わり・生命尊重 直接体験、生命への関心 センスオブワンダー				
第9回	多様性 保育における多様性				
第10回	気候変動の影響 気候変動の影響と保育内容				
第11回	園環境の現状と改善の計画Ⅰ 課題レポートⅠ				
第12回	園環境の現状と改善の計画Ⅱ インターンシップ園の環境				
第13回	理念から環境づくりへ 望ましい園環境				
第14回	今後の保育 課題レポートⅡ				
第15回	指導計画の作成と評価 発表とまとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
保育内容研究「造形表現」	選	教授 有福一昭	2	前期	演習
授業概要	造形表現における材料・素材、造形技法を実践的に学ぶ。				
到達目標	保育における造形活動の意味を理解し、さまざまな造形表現の知識、技法を身につけ感性を高める。子どもの年齢に応じた造形指導、およびそのための素材研究、指導案作成ができるようになる。				
評価方法	作品50%、レポート等の提出物、発表40%、授業態度10%				
教科書等	なし、授業内で適宜、資料配布する。				
内 容					
第1回	オリエンテーション ・授業のねらいと内容、受講の留意点				
第2回	幼児の造形表現について ・幼児の造形表現活動の特徴と保育者の関わり				
第3回	幼児のための造形活動1 ・幼児を取り巻く造形要素について(絵本、玩具等)				
第4回	幼児のための造形活動2 ・紙を使った造形活動				
第5回	幼児のための造形活動3 ・絵の具を使った描画表現による造形活動				
第6回	幼児のための造形活動4 ・紙とそのほかの身近材料を組み合わせた造形活動				
第7回	幼児のための造形活動5 ・紙以外の身近材料を生かした造形活動				
第8回	造形環境を考える1 ・道具と技法の関係を結びつけた造形活動				
第9回	造形環境を考える2 ・季節行事をテーマとした造形活動1(春・夏)				
第10回	造形環境を考える3 ・季節行事をテーマとした造形活動2(秋・冬)				
第11回	造形環境を考える4 ・科学的要素をテーマとした造形活動1(音)				
第12回	造形環境を考える5 ・科学的要素をテーマとした造形活動2(光)				
第13回	模擬授業準備1 ・模擬授業のための見本作り(材料設定等の準備)				
第14回	模擬授業準備2 ・模擬授業のための見本作り(制作、記録)				
第15回	模擬授業発表 ・模擬授業発表(ICT機器の活用含)				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
幼児教育・保育施設運営論	選	山本剛	2	前期	演習
授業概要	就学前教育・保育に関する社会的、制度的または経営的事項について、基礎的な知識を身につける。				
到達目標	現代の教育（保育）を支える制度について知り、それを踏まえたうえで園での教育（保育）活動を円滑に行うための要件について理解する。				
評価方法	最終レポート（70%） 講義のリアクションペーパー（30%）				
教科書等	授業中に適宜指示する。				
内 容					
第1回	近年の教育課題とそれに対応する教育政策				
第2回	幼児教育・保育実践の体系的理解への公教育制度論				
第3回	公教育と保育に係る法律と行政の基本構造① 戦後教育改革と教育基本法・学校教育法				
第4回	公教育と保育に係る法律と行政の基本構造② 戦後教育改革と児童福祉法				
第5回	保育所保育指針の性格と位置づけ				
第6回	幼稚園教育要領の性格と位置づけ				
第7回	幼保連携型認定こども園教育保育要領の性格と位置づけ				
第8回	小学校との接続				
第9回	地域・家庭との連携と子育て支援				
第10回	現代における園の経営課題① 学校づくりと子ども・保護者・地域住民				
第11回	現代における園の経営課題② 地域との連携と開かれた学校づくり				
第12回	園における危機管理① 家庭との連携				
第13回	園における危機管理② 生活・交通・災害時の安全管理				
第14回	目標とする保育者像				
第15回	まとめ（信頼される保育者になるために）				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
保育内容研究「健康」	選	角杉美恵子	2	後期	演習
授業概要	乳幼児の健康に関する様々な課題について、理論的な裏付けを背景に取り組んでいけるようになることを目指す。特に、乳幼児の健康をテーマにした研究論文の輪読を行い、学術的な視点からの理解を深めると共に、簡易な実験、調査を実施し、研究実践力を高める。				
到達目標	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらいと内容を理解する。①乳幼児の健康に関する現代的な課題を説明できる。②乳幼児の健康に関する最近の研究動向を理解している。③乳幼児の健康をテーマにした研究方法について理解している。				
評価方法	課題レポート(知識・理解)50%、課題の発表(思考・判断・表現)30% 平常点(主体性、意欲・関心・態度)20%				
教科書等	幼稚園教育要領解説(文部科学省)、保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省) 幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省) 健やかな育ちを支える領域「健康」上野奈初美 ミネルヴァ書房 保育内容健康 川邊貴子 建帛社				
内 容					
第1回	乳幼児の健康に関する問題の整理① ～乳幼児期の基本的な生活習慣について～				
第2回	乳幼児の健康に関する問題の整理② ～乳幼児の運動発達と遊びについて～				
第3回	乳幼児の健康に関する問題の整理③ ～保育の安全管理・教育について～				
第4回	乳幼児の健康に関する論文報告と解説① ～乳幼児の基本的な生活習慣について～				
第5回	乳幼児の健康に関する論文報告と解説② ～乳幼児の運動発達について～				
第6回	乳幼児の健康に関する論文報告と解説③ ～幼児の遊びについて～				
第7回	乳幼児の健康に関する論文報告と解説④ ～保育の安全管理・教育について～				
第8回	乳幼児の健康に関する研究の実際① 環境構成と保育者の役割 一研究計画一				
第9回	乳幼児の健康に関する研究の実際② 一食育の環境と保護者支援一 実験・調査の準備一				
第10回	乳幼児の健康に関する研究の実際③ 一健康・病気一実験・調査の実施 ※フィールドワーク有				
第11回	乳幼児の健康に関する研究の実際④ 一子どもの体力づくり一実験・調査の実施 ※フィールドワーク有				
第12回	乳幼児の健康に関する研究の実際⑤ 一データの整理、分析一				
第13回	乳幼児の健康に関する研究の実際⑥ 一結果の考察一				
第14回	乳幼児の健康に関する研究の実際(質的研究)① 一参与観察一 ※フィールドワーク有				
第15回	乳幼児の健康に関する研究の実際(質的研究)② 一インタビュー調査一 ※フィールドワーク有				
備考	アクティブ・ラーニングにおけるディスカッション及びフィールドワークの要素を含む授業である。論文報告の際のディスカッションでは、主体的に発表・発言をすること。また、簡易実験・調査の実施などにも積極的に関わること。				

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
保育内容研究「言葉」	選	長田信彦	2	後期	演習
授業概要	乳幼児期の子どもの言葉の発達を促す援助について教材研究や模擬保育を通して追究し、指導支援する実践力を高める。				
到達目標	①乳幼児の発達に即した保育を構想し、指導力を高める。 ②指導案作成を通して保育を想定し、指導に生かす力を獲得する。 ③ICT機器を活用した指導案を作成し、保育実践力を身につける。				
評価方法	言葉に関する自己の学びのまとめと発表50%、提出物30%、議論への参加時の態度20%				
教科書等	大越和孝「改訂新版 『保育内容・言葉『言葉とふれあい、言葉で育つ』』」東洋館出版社、2018				
内 容					
第1回	ガイダンス 授業の計画・進め方・評価の仕方について				
第2回	領域「言葉」の意義の確認 言葉の機能について考える。				
第3回	領域「言葉」の意義の確認 言葉の機能について考える。				
第4回	領域「言葉」の意義の確認 言葉の機能について考える。				
第5回	幼児期の言葉の発達と援助のあり方をまとめる。				
第6回	幼児期の言葉の発達と援助のあり方をまとめる。				
第7回	乳児期の発語を促す保育者の具体的な事例を想定し、考察する。				
第8回	乳児期の発語を促す保育者の具体的な事例を想定し、考察する。				
第9回	幼児期（2歳～3歳）の言葉の発達を促す保育者の具体的な事例を想定し、考察する。				
第10回	幼児期（2歳～3歳）の言葉の発達を促す保育者の具体的な事例を想定し、考察する。				
第11回	幼児期（4歳～5歳）の言葉の発達を促す保育者の具体的な事例を想定し、考察する。				
第12回	幼児期（4歳～5歳）の言葉の発達を促す保育者の具体的な事例を想定し、考察する。				
第13回	言葉の発達に関する自己の学びをレポートにまとめる。				
第14回	言葉の発達に関する自己の学びをレポートにまとめる。				
第15回	自己の学び（研究レポート）の発表と振り返り。				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
保育内容研究「音楽表現」	選	山田麻美子	2	後期	演習
授業概要	就学前までの子どもの音楽表現活動指導において必要な知識・技術の習得をさらに深め、音楽の楽しさや新しい発見の探求が出来る指導法の工夫をする。				
到達目標	就学前までの子どもの音楽表現活動について子どもの成長発達段階を見据えながら領域「表現」のねらい及び内容を踏まえた音楽表現活動指導法を身に付ける。				
評価方法	就学前までの子どもの音楽表現活動指導法と保育者の援助について、模擬保育発表を行い評価する。				
教科書等	テキストは使用せず必要な資料を随時配布する。 参考資料：幼稚園教育要領(フレーベル館)、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(フレーベル館)、保育所保育指針(フレーベル館)				
内 容					
第1回	オリエンテーション 授業のねらい・評価等について				
第2回	領域「表現」のねらいと内容 乳幼児期の音楽表現活動について(音を聴いてみよう)				
第3回	音楽の三要素と音楽活動指導法1(手遊び) リズム・拍・拍子について 色々な拍子とリズム練習				
第4回	音楽の三要素と音楽表現活動指導法 2(楽器遊び) メロディ(旋律)の構成と調性 初見視唱・試奏練習				
第5回	音楽の三要素と音楽表現活動指導法 3 ハーモニー(和声)構成・コードネームについて				
第6回	音楽表現活動指導法 4(オノマトペについて) 言葉のもつリズムを考えてみよう				
第7回	音楽表現活動指導法 5(オノマトペ物語作成) 物語グループ発表				
第8回	音楽表現活動指導法 6(トーンチャイム演奏) トーンチャイム合奏を楽しもう				
第9回	リトミックの基礎 リトミックの歴史と現状について学ぶ				
第10回	リトミック指導のための楽器即興演奏法 1 ピアノ即興演奏法1・和音進行に基づいて旋律を考える				
第11回	リトミック指導のための楽器即興演奏法 2 第10回で考えたピアノ即興演奏を演奏し表現を考える				
第12回	創造的音楽表現活動体験 1 ピアノの即興演奏に合わせて動きを考える				
第13回	創造的音楽表現活動体験 2(演奏と動きの完成) 調性・強弱・和音感・リズム感等を考える				
第14回	模擬保育の意義と音楽表現活動指導案作成				
第15回	模擬保育実践・まとめとふりかえり				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
幼児体育理論と実践	選	角杉美恵子	2	後期	演習
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体力と健康について理解するとともに運動能力と体力の概念について理解する。 ・幼児期の運動指針の意義と運動能力の測定・評価について理解し、遊びとしての運動指導の方針について理解する。 ・運動指導における保育者の援助の在りかたを踏まえた運動遊びを企画する。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら運動に関心を持ち、幼児期の運動発達の特徴を理解するとともに子どもの健全な育ちに寄与することができる。 ・子どもの発達段階に応じた運動遊びを企画することができる。 ・運動能力を客観的な評価方法を学修し運動指導の問題点について指摘することができる。 ・運動遊びにおける保育者の適切な援助の在りかたについて考えることができる。 				
評価方法	課題レポート(知識・理解)50%、課題の発表(思考・判断・表現)30% 平常点(主体性・意欲・関心・態度)20%				
教科書等	幼稚園教育要領解説(文部科学省)、保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)、幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省)、杉原隆・川邊貴子編著「運動発達と運動遊びの指導」ミネルヴァ書房				
内 容					
第1回	オリエンテーション、運動場面における課題、運動能力の低下、体力の概念について				
第2回	幼児期の発達と運動能力・技能の発達について				
第3回	生きる力の育成及び子どもの健康と運動遊びについて				
第4回	運動発達と環境要因を構造的に把握するとともに、年間計画、週案、日案、指導案について				
第5回	安全教育に関する指導と健康安全に関する留意事項について				
第6回	幼児期の運動発達の特徴と幼児運動能力検査に基づく体力について				
第7回	幼児期の運動発達の特徴の応じた運動指導の在りかたについて				
第8回	運動に対する動機づけの発達、進んで運動する子どもを育てる保育と援助について				
第9回	発達を支える多様な活動について				
第10回	運動指導の在りかたや日常の保育への活かし方について				
第11回	遊びの重要性、遊びとしての運動指導の基本指針について				
第12回	運動遊びをとおして社会性や知的能力を育む様々な運動パターンについて				
第13回	自然環境を利用した様々な運動パターンについて				
第14回	様々な場面を想定した運動遊びの企画と指導案の作成及び模擬保育について				
第15回	企画した運動遊びの評価及び幼児体育の在りかたについてまとめる。				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
児童文化教材研究と実践	選	深澤瑞穂	2	後期	演習
授業概要	児童文化の学習を通して、授業で製作した作品を活用し、自己の表現技術や指導方法について習得する。実践としては、子どもの発達を視野に入れ、地域の幼稚園や保育園で演じる機会をもち交流を楽しむ。				
到達目標	①児童文化の歴史的な変遷及び子どもを取り巻く社会の変化について理解を深める。 ②子どもの遊びと文化について学び自身が選んだ教材を主体的に製作する。 ③子どもたちの前で演じることを通して、自ら省察を深める。				
評価方法	児童文化について専門知識を身に付けたか。 子どもの発達に応じた作品をいかに工夫して製作をしたか。 作品を活用し、自己の表現技術や指導方法について習得できたか。				
教科書等	必要に応じて講義用のテキストを作成する。作品製作にかかわる素材や材料の費用は個人負担。 参考図書：新版「児童文化」ななみ書房				
内 容					
第1回	ガイダンス・シラバス及び評価方法について ・児童文化の誕生と現在について				
第2回	児童文化財について ・様々な文化財から自分たちの製作したい教材を選ぶ。				
第3回	よい声の出し方 ・活舌の練習				
第4回	よい「語り」を目指そう ・脚本作成 ・音読と朗読の違い				
第5回	教材の脚本や下絵を作成 ・準備した素材や教材についての確認				
第6回	教材製作				
第7回	教材製作				
第8回	教材製作				
第9回	教材製作				
第10回	教材製作				
第11回	教材製作				
第12回	教材製作				
第13回	作品完成 見せ方・演じ方について				
第14回	リハーサル				
第15回	まとめ ・近隣園での実演を行う。				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
芸術と表現(ピアノ)	選	伊藤菜々子	2	前期	演習
授業概要	鍵盤楽器の歴史や様々な音楽ジャンルを探求しながら、ピアノの表現や基礎技術を身に付ける。また、実技発表を通して自身の演奏技術を向上させ、ピアノに親しみを持つことを目指す。				
到達目標	①鍵盤楽器の種類や音楽の歴史について理解し、音楽の多様性を理解する。 ②演奏曲目選定から実技発表までの準備過程を通じて、自身の演奏スキルと表現力を高める ③ピアノ演奏を通じて、自己表現し、音楽の楽しさを共有する。				
評価方法	・授業内での取り組み・実技演奏発表 ・プログラムノート・授業外での取り組み				
教科書等					
内 容					
第1回	ガイダンス (学習方法や効果的な練習方法の紹介)				
第2回	鍵盤楽器について (クラヴィコード・チェンバロ・オルガンの紹介)				
第3回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲①(バロック)				
第4回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲②(古典派)				
第5回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲③(ロマン派)				
第6回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲④(近現代)				
第7回	時代ごとの鍵盤楽器のための楽曲⑤(映画音楽)				
第8回	実技演奏研究①(曲目の検討・選定)				
第9回	実技演奏研究②(曲目の知識と理解)				
第10回	実技演奏研究③(楽曲分析)				
第11回	実技演奏研究④(アンサンブル研究)				
第12回	実技演奏練習①(読譜)				
第13回	実技演奏練習②実技演奏練習②				
第14回	実技演奏練習③(リハーサル)				
第15回	実技演奏発表・まとめと振り返り				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
芸術と表現（声楽）	選	松田扶美子	2	前期	演習
授業概要	①声楽の基礎的な演奏技術と表現方法を学ぶことを通し、音楽性、音楽的実践力を身につける。 ②各自の進度に合わせた個人レッスン及びアンサンブル等の実践を行う。				
到達目標	①声楽の曲に応じた発声法・呼吸法・演奏技術を身に付けることができる。 ②曲の構成を知り、演奏表現につなげることができる。				
評価方法	実技試験（演奏の声楽さ、技術の達成度、音楽性）70%、 提出物10%、 日常の取り組み20%				
教科書等	新・声楽指導教本（教育芸術社）				
内 容					
第1回	ガイダンス・授業の内容と進め方				
第2回	声楽に必要な身体の仕組み・呼吸法・使い方について				
第3回	声楽に必要な呼吸法・発声について（話し声・歌声）				
第4回	様々なジャンルの曲の構成、背景を知る（ミュージカル・ジャズ・ポップス・童謡・演歌・子どもの歌等）				
第5回	課題曲の読譜①（曲の構成理解）				
第6回	課題曲の読譜②（様式の特徴を理解し、留意点を考察する）				
第7回	様々な演奏を聴くことにより、自分の表現の幅を広げる（実践）				
第8回	様々な演奏を聴くことにより、自分の演奏表現につなげる（応用）				
第9回	課題曲の仕上げ				
第10回	アンサンブルの基礎				
第11回	アンサンブルを楽しむ実践				
第12回	アンサンブルを楽しむ応用				
第13回	発表のための練習①				
第14回	発表のための練習②				
第15回	実技発表・まとめ・振り返り				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
芸術と表現（和楽器）	選	非常勤講師 坂田舞子	2	後期	演習
授業概要	日本における伝統的な和楽器（三味線・箏・小鼓・太鼓など）の技術・知識を習得する。日本人ならではの感性で森羅万象を表現した歌舞伎の黒御簾音楽を実際に演奏することによって、芸術表現の多角的な視野を広げ、豊かな感性を培い、自国の伝統芸能に対する理解を一層深める。				
到達目標	歌舞伎音楽（黒御簾音楽）の合奏ができる。各楽器の調整ができる。義務教育における邦楽授業への対応力を身につける。				
評価方法	実技による授業のため、出席により知識と技能を修得することが重要である。出席点30%、平常点（授業中の取り組みの様子・小レポート）30%、実技試験30%、特別加点10%に配分し、計100%で評価する。				
教科書等	必要に応じてプリントを配布する				
内 容					
第1回	ガイダンス 芸術と表現（和楽器）の概要説明				
第2回	歌舞伎の黒御簾音楽について				
第3回	三味線の調整の仕方・奏法				
第4回	三味線で黒御簾音楽を弾く① 「千鳥の合方」奏法の習得				
第5回	三味線で黒御簾音楽を弾く② 「千鳥の合方」奏法の習得				
第6回	小鼓、締太鼓、大太鼓の奏法				
第7回	囃子で黒御簾音楽を打つ①「千鳥の合方」小鼓の奏法の習得 「水音」「波音」大太鼓奏法の習得				
第8回	囃子で黒御簾音楽を打つ②「早笛」締太鼓の奏法習得				
第9回	箏の調整の仕方・奏法				
第10回	箏で黒御簾音楽を弾く①「八千代獅子」奏法の習得				
第11回	箏で黒御簾音楽を弾く②「八千代獅子」奏法の習得				
第12回	合奏演習①				
第13回	合奏演習②				
第14回	合奏演習③				
第15回	実技試験（小レポートを提出）				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
芸術と表現(アニメーション)	選	伊垣京子	2	後期	演習
授業概要	アニメーション作品を鑑賞・分析・再現をし、制作することにより映像表現の方法を探り、関心をたかめる。				
到達目標	コマ撮りアニメーション作品を制作し、発表をすることで表現力を養う。				
評価方法	課題提出80% 授業態度20%				
教科書等	各回ごとにプリント配布・資料を提示する。				
内 容					
第1回	ガイダンス				
第2回	アニメーションの鑑賞				
第3回	アニメーションの分析				
第4回	アニメーションの1シーンを再現(準備)				
第5回	アニメーションの1シーンを再現(撮影)				
第6回	コマ撮りアニメーション(絵コンテ作り)				
第7回	コマ撮りアニメーション(キャラクターデザイン)				
第8回	コマ撮りアニメーション(キャラクター制作)				
第9回	コマ撮りアニメーション(道具作り)				
第10回	コマ撮りアニメーション(背景作りと撮影)				
第11回	コマ撮りアニメーション(撮影)				
第12回	コマ撮りアニメーション(撮影から編集)				
第13回	コマ撮りアニメーション(編集と音入れ)				
第14回	コマ撮りアニメーション(作品の完成と発表準備)				
第15回	制作した作品の発表と講評				
備考	課題で必要な道具や材料は各自準備すること。 コマ撮りアニメーションを行う際にはStop Motion(無料)アプリを使用予定				

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
情報教育と社会	情報:必修 他:選択	伊庭 崇	2	前期	講義
授業概要	メディアが学校教育やそれを取り巻く社会にどのような影響をもたらしているのかを考察し、子どもとデジタルメディアの関わりを考える。				
到達目標	ICT、デジタルメディア、AI等と社会との関わりを学び、情報社会への対処の方法を考えることができる。				
評価方法	授業内での取り組み(50%)、課題(30%)、レポート(20%)				
教科書等	必要に応じて、担当教員より提示する。				
内 容					
第1回	イントロダクション 現代社会におけるICTの役割				
第2回	視聴覚メディアの歴史 コンピュータ活用の歴史				
第3回	先端技術の活用				
第4回	情報活用能力				
第5回	社会に必要なICT活用能力 ICT活用を支える資質と能力				
第6回	個別最適化に向けたICT活用				
第7回	対話・協働を支えるICT				
第8回	幼児におけるICT活用 障がい者におけるICT活用				
第9回	デジタルコンテンツの役割				
第10回	表現能力を高めるためのICT活用 課題作成1				
第11回	表現能力を高めるためのICT活用 課題作成2				
第12回	ICTによるリモートの可能性 【オンライン授業】				
第13回	情報モラル・情報セキュリティ 【オンライン授業】				
第14回	表現能力を高めるためのICT活用 課題作成3				
第15回	課題発表, まとめ				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
情報科学実践演習A (動画作成)	情報:必修 他:選択	Reiji	2	前期	演習
授業概要	動画制作を通して、物事の見方や伝え方、表現方法などを考察する。受け手の視点で物事を考えられる多角的な思考を学ぶ。				
到達目標	制作する動画の目的、表現方法、与える影響や印象を学び、動画制作企画書を作成。実践で企画書に沿った動画の制作を行う。				
評価方法	授業態度、実践の態度、作成した動画内容で総合的に評価する。				
教科書等	動画編集ソフト				
内 容					
第1回	オリエンテーション 授業のねらいと評価について				
第2回	動画制作企画書の作成(1) 作成する動画の目的を考察する				
第3回	動画制作企画書の作成(2) 作成する動画の表現方法を考察する				
第4回	動画制作企画書の作成(3) 目的や表現方法を決め、企画書をまとめる				
第5回	動画制作企画書の作成(4) 視聴者の視点で自身の企画書を評価する				
第6回	動画編集ソフト学習(1) 基礎知識、基本操作の学習				
第7回	動画編集ソフト学習(2) 編集操作の学習(テロップやカットなど)				
第8回	動画作成(1) 素材集め～整理、撮影準備～撮影				
第9回	動画作成(2) 撮影～撮影済素材の加工、作業目安の整理				
第10回	動画作成(3) 編集ソフトを使用し動画の制作①				
第11回	動画作成(4) 編集ソフトを使用し動画の制作②				
第12回	動画作成(5) 編集ソフトを使用し動画の制作③				
第13回	動画作成(6) 編集ソフトを使用し動画の制作④				
第14回	動画完成、まとめ 書き出し、 上映回、作品プレゼン、作品評価				
第15回	講義まとめ自己評価				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
情報科学実践演習B (ゲームプログラミング)	情報:必修 他:選択	Reiji	2	後期	演習
授業概要	Unity を使用して、ゲームプログラミングの基礎を学ぶ。 言語はC#を学び、使用する				
到達目標	①ゲームプログラミングの基礎を理解する。 ②C#言語の基礎を理解し、プログラムの作成ができる。 ③2Dゲームプログラミングに必要な処理を適切に構築できる。				
評価方法	文献や資料の講読、演習などの課題を課し、授業への取組や授業内の課題、提出物等で評価する。				
教科書等	必要に応じて、担当教員より提示する。				
内 容					
第1回	授業ガイダンス				
第2回	Unity について Unityの概要、基本操作の説明、小課題				
第3回	Unity について 共通課題作成				
第4回	Unity について 共通課題作成				
第5回	C# について C#の概要、変数についての説明、小課題				
第6回	C# について 関数についての説明、小課題				
第7回	C# について クラスについての説明、小課題				
第8回	Unity + C# 基本プログラムの小課題				
第9回	Unity + C# 基本プログラムの小課題				
第10回	Unity + C# 基本プログラムの小課題				
第11回	オリジナルゲーム作成 考案、設計				
第12回	オリジナルゲーム作成 プログラミング構築				
第13回	オリジナルゲーム作成 プログラミング構築				
第14回	オリジナルゲームの相互試演、及びゲームイベント企画				
第15回	まとめと授業の総括(含 確認テスト)				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態
情報科学実践演習C (情報の発信と収集)	情報:必修 他:選択	佐野匡	2	後期	演習
授業概要	SNSやSEO等の活用について必要なリテラシーを習得し、適切な情報の発信や収集の在り方について学びます。				
到達目標	①SNSやSEO等を適切に活用することを通して、情報の発信や収集についての基礎的な知識を理解することができる。②利用内容に合わせた応用力を身に付け、目的にあった活用ができる。③日常の活動において、身に付けた技術を活用しようとする。				
評価方法	課題への取り組み状況・提出状況80%、授業内試験20%、				
教科書等	指定しない				
内 容					
第1回	オリエンテーション 授業内容-目的-計画-評価方法の確認等				
第2回	SNSの現状と課題 SNSの現状について、自分の周りの状況と比較				
第3回	遠隔会議システムの活用 遠隔会議システム、メタバースを体験し、活用の可能性について考察				
第4回	SNSの特徴と活用法 SNSの種類や特徴を知るとともに、現在の運用状況を調査				
第5回	SNS活用の実際① SNS活用のための企画・設計と、情報リテラシーについての確認				
第6回	SNS活用の実際② SNSにより発信をするための準備				
第7回	SNS活用の実際③ SNSの運用を実際に行う				
第8回	SNS活用の実際④ 企画・設計にもとづいた効果の検証				
第9回	SNS活用の実際⑤ 検証した結果に合わせた改善				
第10回	SEOの基礎検索 エンジン最適化 (SEO) の理解				
第11回	SEOの実際① SEO対策の実践をする。				
第12回	SEOの実際② SEO対策を行った結果の検証と改善				
第13回	情報の発信と収集① 各自でテーマを決め、そのテーマに沿った実践をする。				
第14回	情報の発信と収集② 各自がテーマを決め、そのテーマに沿った実践をする。				
第15回	まとめ テーマに沿って行った実践についてレポートするとともに、授業内試験を行う。				
備考					

講義要目

(専攻科子ども教育専攻)

科目名	必・選	担当教員	単位数	履修年次	授業形態	
修了研究	必	教授 池口洋一郎 教授 深澤瑞穂 准教授 山本剛	4	通年	演習	
授業概要	受講学生は、教育学の基礎理論に関連してこれまでの授業、実習等を通して生じた興味・関心を基に、各自の研究テーマを設定し、担当教員の指導のもと研究に取り組む。研究の経過については教員からの指導と学生同士の質疑応答を通して随時省察を行う。研究を通しての学修成果については、中間発表会、研究成果発表会を得て、論文として提出する。 【クラス分け方式】					
到達目標	①教育学または子ども教育学の方法に基づき調査研究を行った上で、客観的に結果を把握し、論考することができる。 ②自らの研究成果を他者に伝えるためのプレゼンテーション能力を身につける。 ③調査・研究の実践の中で教育学・子ども教育学に基いた子ども理解の方法を身につける。					
評価方法	中間発表・修了研究の論文内容及び口頭発表					
教科書等	学生のテーマに沿って適宜に資料を配布					
内 容						
第 1 回	ガイダンス 専攻科担当教員がそれぞれ専門分野についてのガイダンスを開いて、学生のテーマを決定し、翌週までに暫定的にゼミ教員を決定する。					
第 2 回	研究テーマについての検討 ゼミごとのセミナー					
第 3～4 回	先行研究の調査（1） 各自がテーマと関わる研究文献の検討					
第 5～6 回	先行研究の調査（2） 検討結果を発表					
第 7～8 回	テーマ設定 テーマと内容に関する構成図作成（1）					
第 9 回	テーマと内容に関する構成図作成（2）					
第 10～11 回	序論の作成 研究の動機と目的、用語の定義					
第 12～14 回	本論の作成 先行研究・研究対象の分析など					
第 15 回	中間発表					
第 16～20 回	本論の作成					
第 21～24 回	結論の作成 結論の導き方・引用参考文献リストの作り方					
第 25～27 回	本論まとめ作成					
第 28～30 回	口頭発表					
備考						